

ORIGAMI

TANTEIDAN

# 折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

## 解析! 見玉資料: プロローグ

A Prologue: Deciphering Kodama Materials

松浦英子

Matsuura Eiko

折り図 Diagrams

## ズール

Zuul

富永和裕

Tominaga Kazuhiro



おりがみ我楽多市 Origami Odds and Ends

## 「どんぐり箱」 苅谷知弥

Acorn Box: Kariya Tomoya

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

## 「グラマン F6F ヘルキャット」 南島和英

Grumman F6F Hellcat: Minamijima Kazuhide

ユニット折り紙カルテット Modular Origami Quartette

## 「はねだし三角ユニットA,B,C」

## 「はねだし三角ユニット- 凹組み」 布施知子

Triangular Unit Model A,B,C,

Triangular Unit Model with Concavity: Fuse Tomoko



通巻 **205** 号

# 日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

## 第一章 名称と目的

### 第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

### 第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

## Chapter 1: Name and Purpose

### Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

### Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

## ●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



表紙掲載作品: 「はねだし三角ユニットA,B,C、はねだし三角ユニット- 凹組み」 創作: 布施知子, 「どんぐり箱」 創作: 刈谷知弥, 「グラマン F6F ヘルキャット」 創作: 南島和英, 「ズール」 創作: 冨永和裕

"Triangular Unit Model A,B,C, Triangular Unit Model with Concavity" by Fuse Tomoko, "Acorn Box" by Kariya Tomoya, "Grumman F6F Hellcat" by Minamijima Kazuhide, "Zuul" by Tominaga Kazuhiro

No. **205**



Grumman F6F Hellcat: Minamijima Kazuhide

**クローズアップ / Close-up**

**P.14 解析!児玉資料:プロローグ**

A Prologue: Deciphering Kodama Materials

松浦英子

Matsuura Eiko

**折り図・展開図 / Diagrams and Crease Pattern**

**P.26 展開図折りに挑戦!**

Crease Pattern Challenge!

**グラマン F6F ヘルキャット**

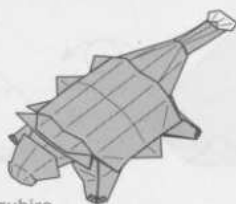
Grumman F6F Hellcat

南島和英

Minamijima Kazuhide

**P.27 ズール**

Zuul



富永和裕

Tominaga Kazuhiro

**カラーページ / Color**

**P.20 オリガミ・フォトギャラリー**

Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より  
Models Based on Diagrams and Crease  
Patterns of This Issue

解説・前川 淳  
Comments: Maekawa Jun

**P.22 勝崎友太折り紙作品誌上展示**

Origami Works by Katsuzaki Yuta

**折り図 / Thematic Series with Diagrams**

**P.4 ユニット折り紙カルテット**

Modular Origami Quartette

はねだし三角ユニットA,B,C

はねだし三角ユニット-凹組み

Triangular Unit Model A,B,C

Triangular Unit Model with Concavity

布施知子

Fuse Tomoko

**P.8 おりがみ我楽多市**

Origami Odds and Ends

どんぐり箱

Acorn Box

刈谷知弥

Kariya Tomoyo

**読み物 / Articles**

**P.16 ぼくらは折紙探偵団**

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

折りパターンが一瞬で現れる不思議なボールペン:  
SwitchPen-開発秘話インタビュー

A Wondrous Ballpoint Pen, SwitchPen, with Folding  
Patterns Appearing in an Instant - Interview on the  
Development Story

三谷 純

Mitani Jun

**P.18 折紙図書館の本棚から**

From the Bookshelves of the JOAS Library

『折り紙全書』河合豊彰 著

"Compendium of Origami" by Kawai Toyooki

飯屋菌寛悟

Kariyazono Kango

**P.39 ペーパーフォルダーの横顔**

Paper Folders on File

合谷哲哉

Gotani Tetsuya

**コラム / Columns**

**P.7 折り紙の周辺**

Origami and Its Neighbors

布施知子

Fuse Tomoko

**P.17 マコトか。**

~やまくち真の回想録~

Makoto or Not?: Memoirs by Yamaguchi Makoto

やまくち真

Yamaguchi Makoto

**P.37 おりすじ**

Orisuzi ("Fold-Creases")

中村康佑

Nakamura Kosuke

**P.38 折り紙千夜一夜**

One Thousand and One Nights of Origami

前川 淳

Maekawa Jun

**情報 / Information**

**P.40 つまみおり Rabbit Ear**

## はねだし 三角ユニットA,B,C

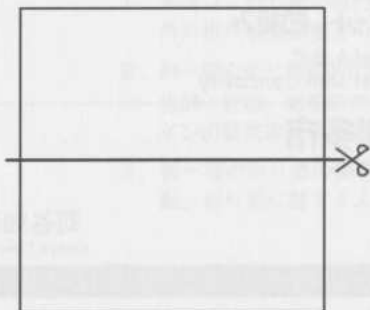
Triangular Unit Model A,B,C

用紙: 15×7.5cmが基準

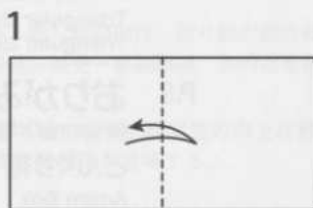


布施知子

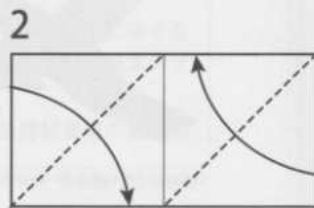
Fuse Tomoko



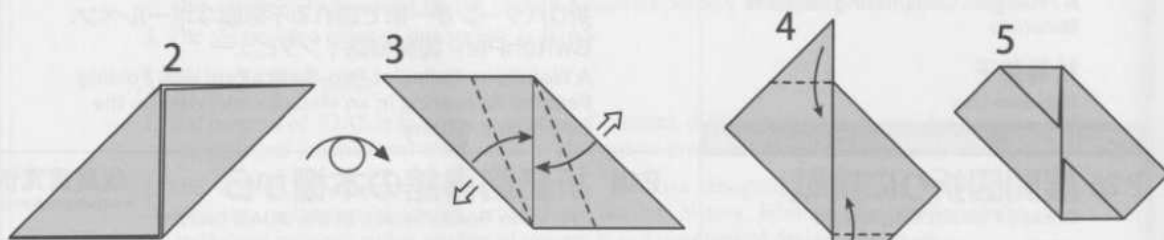
半分に切った紙を使う



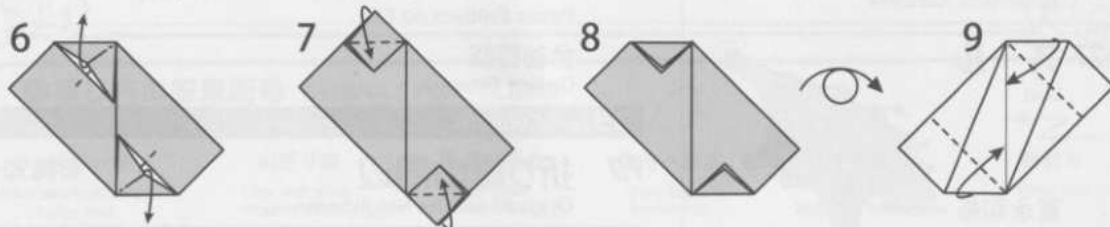
半分に折り筋を付ける



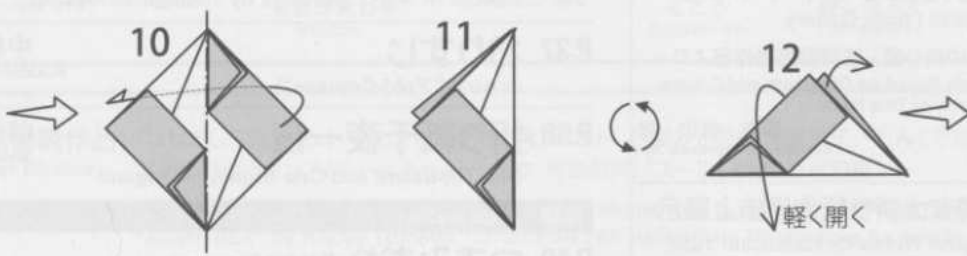
それぞれ縁に合わせて折る



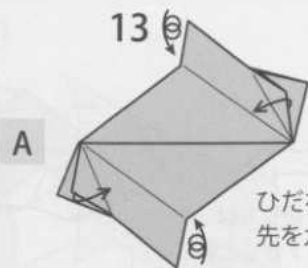
下は折らずにはね出すようにして  
縁を折り筋に合わせて折る



内側を広げて  
つぶすように折る

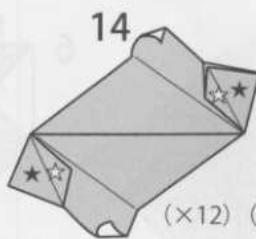


軽く開く



A

ひだを起こし、  
先をカールする

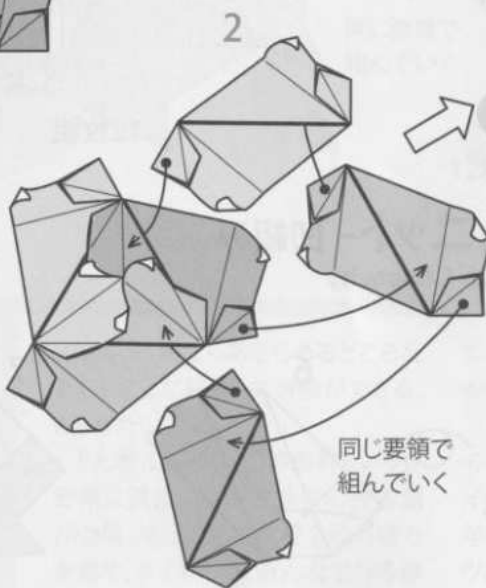


★印を差し込み、☆印は外に出す

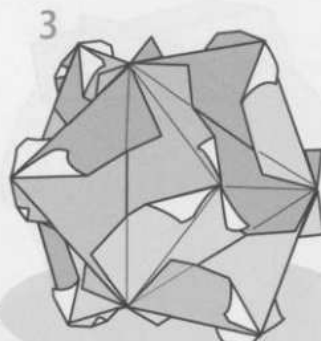
[組み方]



★印を差し込み、  
☆印は外に出す

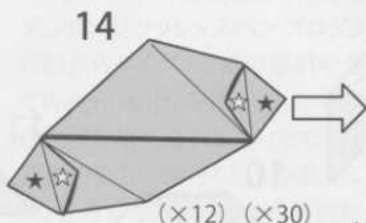
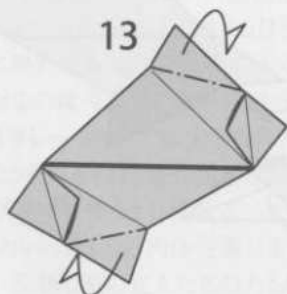


同じ要領で  
組んでいく

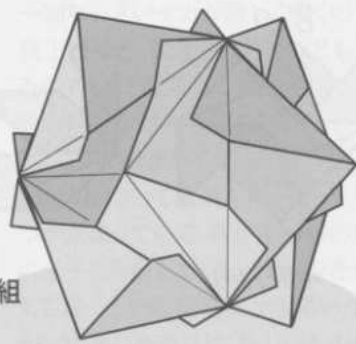


12枚組

B P.5Aの13から

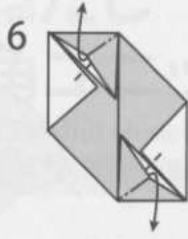
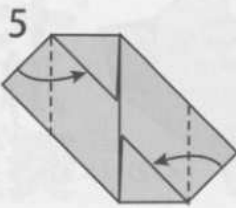


12枚組





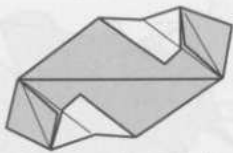
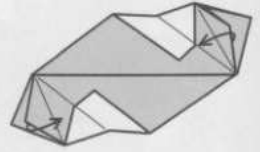
C P.4の5から



内側を広げて  
つぶすように折る

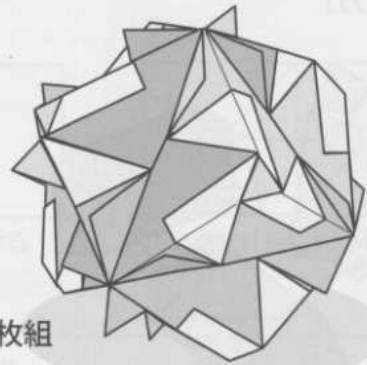


以下、折り方は  
P.4の7からと同じ



(×12) (×30)

組み方は A(P.5)と同じ

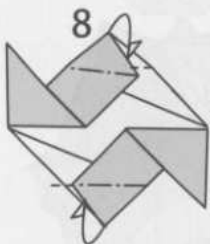
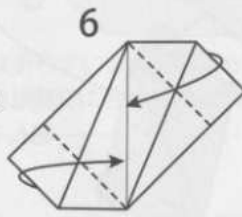
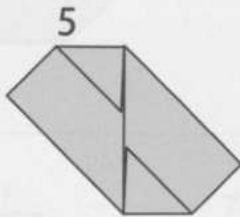


12枚組

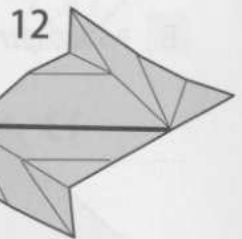
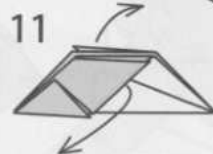
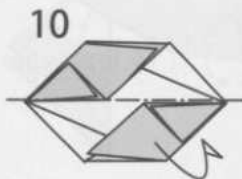
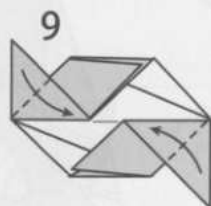
## はねだし三角ユニット- 凹組み

Triangular Unit Model with Concavity

P.4の5から

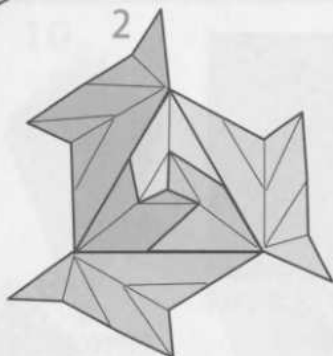
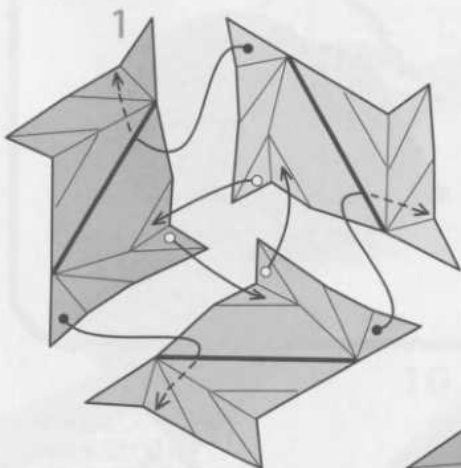


中割り折り

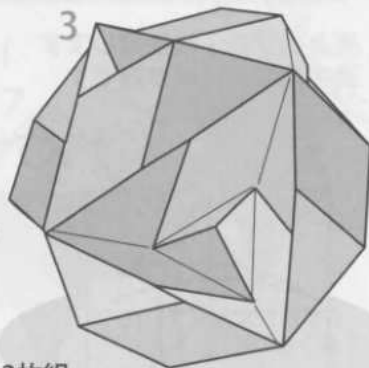


(×12) (×30)

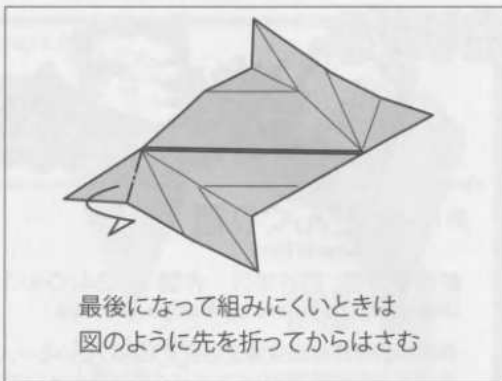
[組み方]



同じ要領で  
組んでいく



12枚組



最後になって組みにくいときは  
図のように先を折ってからはさむ

折り紙の  
周辺

第124回

春日

Spring Days with Sunlight

Origami and  
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

毎日力いっぱい折り紙をしている。7月13日開幕「大地の芸術祭」、9月13日開幕「北アルプス国際芸術祭」に参加する。その後も10月と11月に展示会が控えている。こんなに重なるのは今までにない経験だ。インスタレーションでは大きな作品をいくつも作るの、創作活動といっても、アタマを使うより冒頭述べたように「力いっぱい」の肉体労働がまさっている。折り紙の友人たちの力も借りられるところは借りている。この力は

大きく、一人ならあきらめるところを新しいことに挑戦して冒険ができる。ありがたい。

「大地」は新潟県の津南町という長野県に隣接する豪雪地帯の元店舗が会場。地元の小中学校全校の協力を得て、タイトルは「みんなで作る津南の森」。モデルはコーン状のスパイラルタワー。準備が佳境に入っている。忙しいけれど子供達と作るのは楽しみだ。

「北アルプス国際芸術祭」は、旭・デュボン フラッシュスパン プロダクツ(株)からタイベック紙の提供を受けてPaper Gardenを作る。タイベック紙の性質を知り、それにあったモデルを見極めるのに時間も紙も無駄をしたが、仕方がない。会場は木崎湖畔の木崎夏期大学の畳敷きの広大な講堂。想定していた3倍以上の面積で、予定のモデルを一つ持ってゆき置い

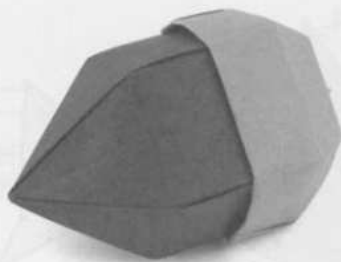
てみたが、全く映えなかった。新しいモデルに変更して、連日折っている。

外を見れば春爛漫。サクラ、ウメ、モモ、ユキヤナギ、様々な種類のスイセンが明るく庭を彩っている。今年は外来種の大声で鳴くガビチョウという鳥がいらないせいか、落ち着いた春で、オオルリの声も響き、サンショウクイも鳴きながら波状飛行をしている。先日サシバというトビより一回り小さいタカが激しく鳴くので見上げると、大きさが2倍ほどもあるクマタカと見られる猛禽が悠然と輪を描きながら飛んでおり、それにちよっかいを出しているのだった。クマタカについては飛ぶルートがいくつか決まっていて、我が家の前の山に正午ころ飛んでくる、とカメラを携えて通っている愛鳥家から聞いた。うらうらとした春日に、珍しいものを見た、と連れ合いと話した。

## 第124回 どんぐり箱 Acorn Box

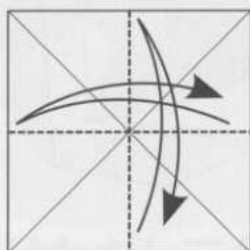
創作・折り図: 刈谷知弥 作図: 2024/04/14  
Design & Diagrams by Kariya Tomoya

作者は折紙探偵団東海友の会で活躍している一人で、創られる作品はアイデアが豊富で楽しくユニークな作品が多い作家です。



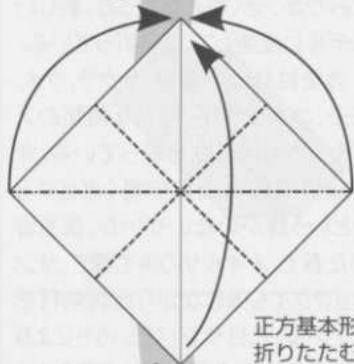
実とヘタ各1枚使用します  
途中まで同じ折り方です

2



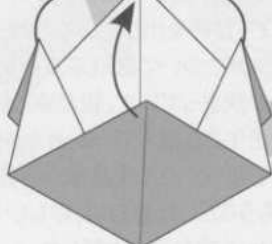
半分に折りすじをつける

3

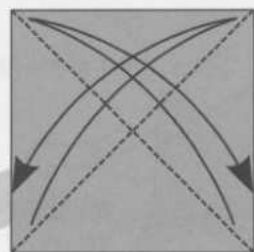


正方基本形に  
折りたたむ

4

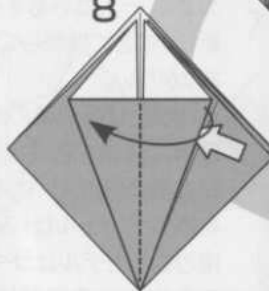


途中の図



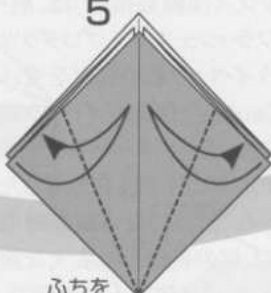
対角線に折りすじをつける

8



1まいめくる

5



ふちを  
中心線に合わせて  
折りすじをつける

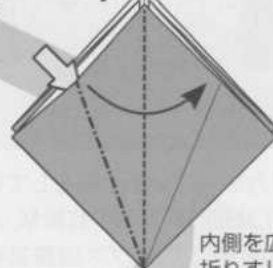
6



裏返して  
同じようにふちを  
中心線に合わせて  
折りすじをつける

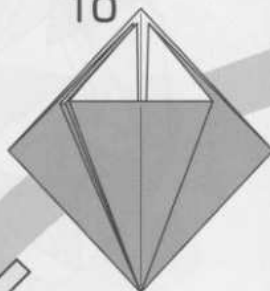
内側を広げて  
折りすじで  
開いてつぶす

7

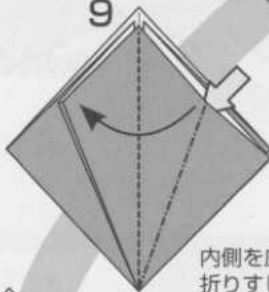


内側を広げて  
折りすじで  
開いてつぶす

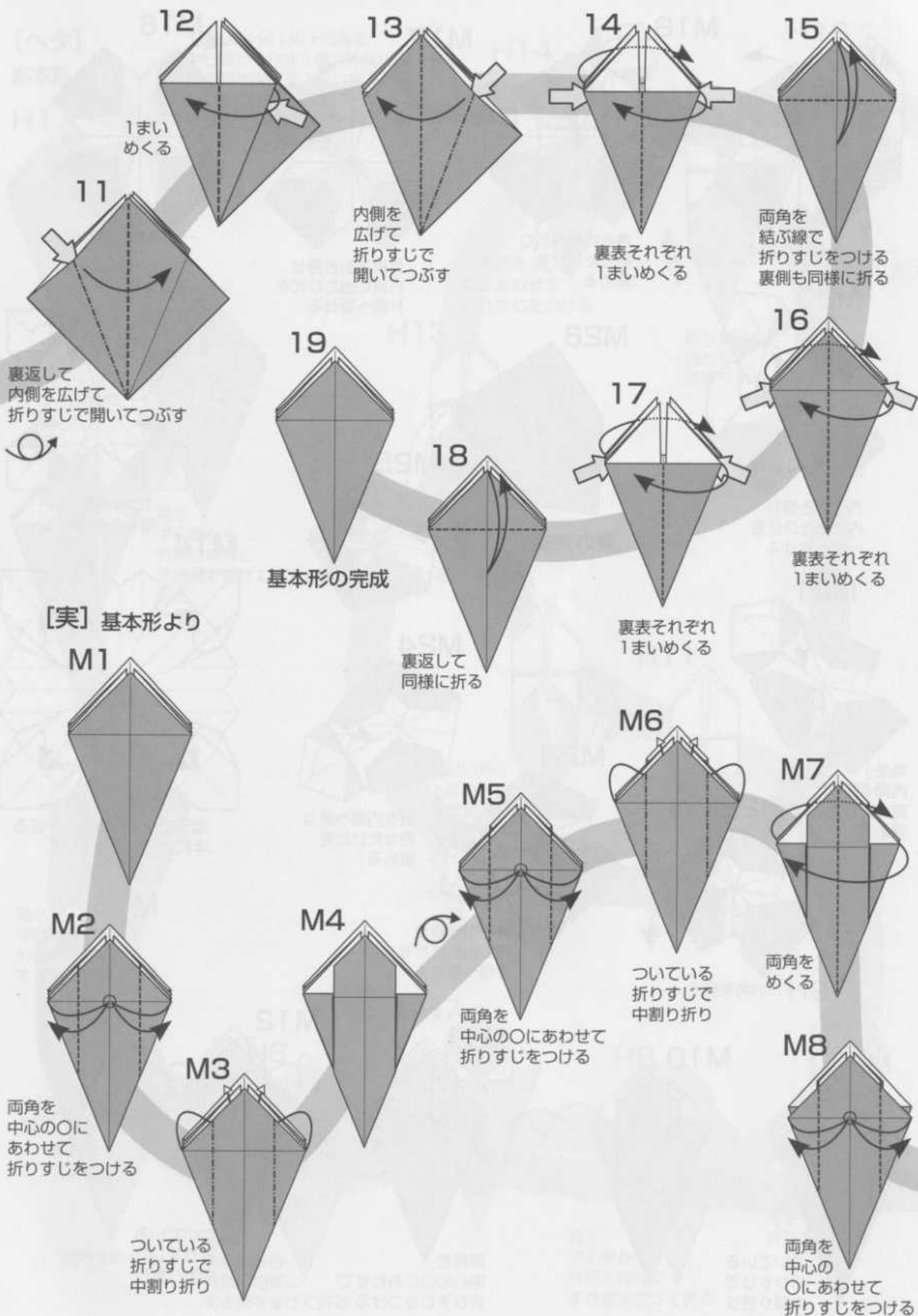
10

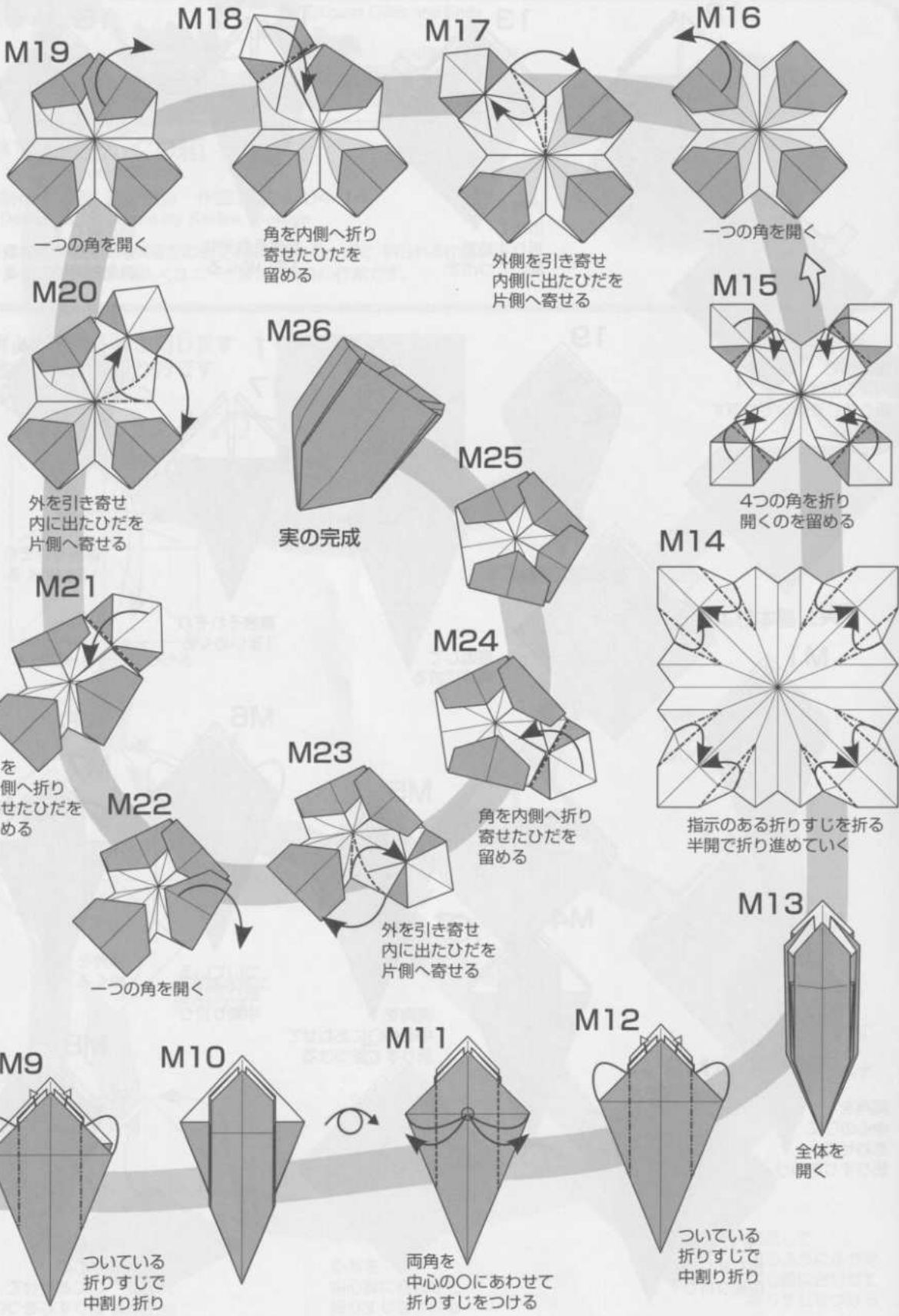


9









M19

一つの角を開く

M18

角を内側へ折り寄せたひだを留める

M17

外側を引き寄せ内側に出たひだを片側へ寄せる

M16

一つの角を開く

M20

外を引き寄せ内に出たひだを片側へ寄せる

M26

実の完成

M25

M15

4つの角を折り開くの留める

M21

角を内側へ折り寄せたひだを留める

M24

角を内側へ折り寄せたひだを留める

M14

指示のある折りすじを折る半開で折り進めていく

M22

一つの角を開く

M23

外を引き寄せ内に出たひだを片側へ寄せる

M13

全体を開く

M9

ついている折りすじで中割り折り

M10

M11

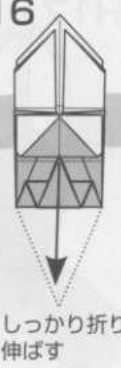
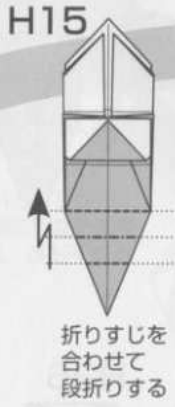
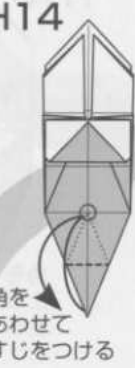
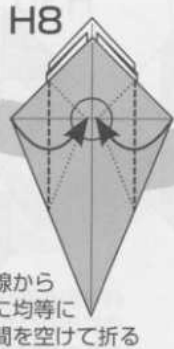
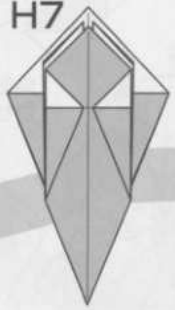
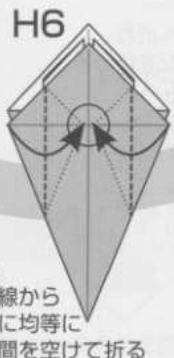
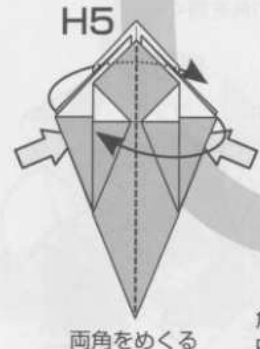
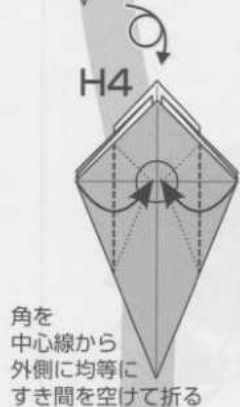
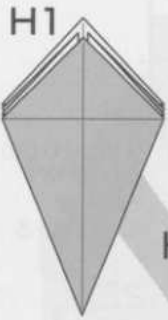
両角を中心の〇にあわせて折りすじをつける

M12

ついている折りすじで中割り折り

[ヘタ]  
基本形より

工程H2 H4 H6 H8角を  
中心線から2mmずつ外側に、  
すき間を空けるように折る  
(折り紙用紙の場合)  
厚い紙ではより多くの  
すき間を空けて折る



角を  
中心線から  
外側に均等に  
すき間を空けて折る

角を  
中心線から  
外側に均等に  
すき間を空けて  
折る

にぶい角を  
上のふちに  
合わせて  
全体を折り  
折りすじをつける

にぶい角を  
結ぶ線で  
全体を折り  
折りすじをつける

下の角を  
○にあわせて  
折りすじをつける

折りすじを  
合わせて  
段折りする

しっかり折り  
伸ばす

角を上  
のふちに  
合わせて折る

角を下に  
折り下げる

両角をめくる

角を  
中心線から  
外側に均等に  
すき間を空けて折る

角を  
中心線から  
外側に均等に  
すき間を空けて折る

H17



H18



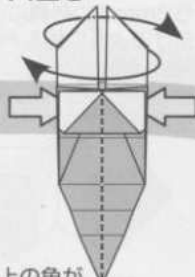
角を下に  
折り下げる

H19



角を  
上のふちに  
合わせて折る

H20



上の角が  
面になるように  
それぞれひらく

H21



H12~H16の  
折りすじを  
もう一度  
しっかり折る

H22



角を下に  
折り下げる

H26



H25



角を下に  
折り下げる

H24



H23



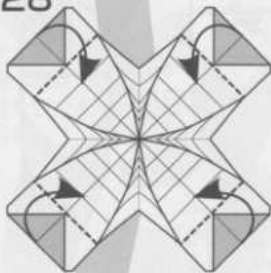
角を  
上のふちに  
合わせて折る

H27



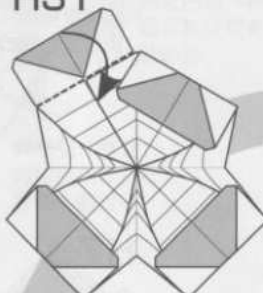
全体を  
開く

H28



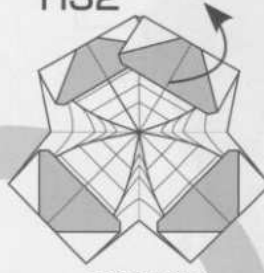
4つの角を折り  
開くのを留める

H31



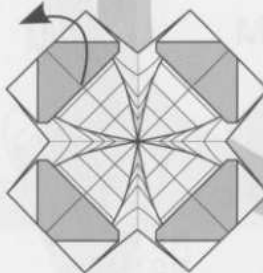
角を内側へ折り  
寄せたひだを留める

H32



一つの角を開く

H29



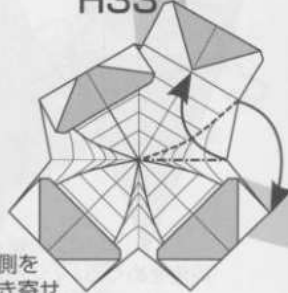
一つの角を開く

H30

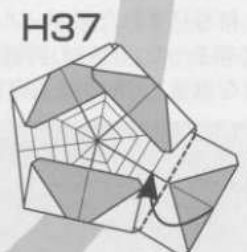
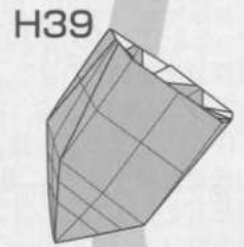
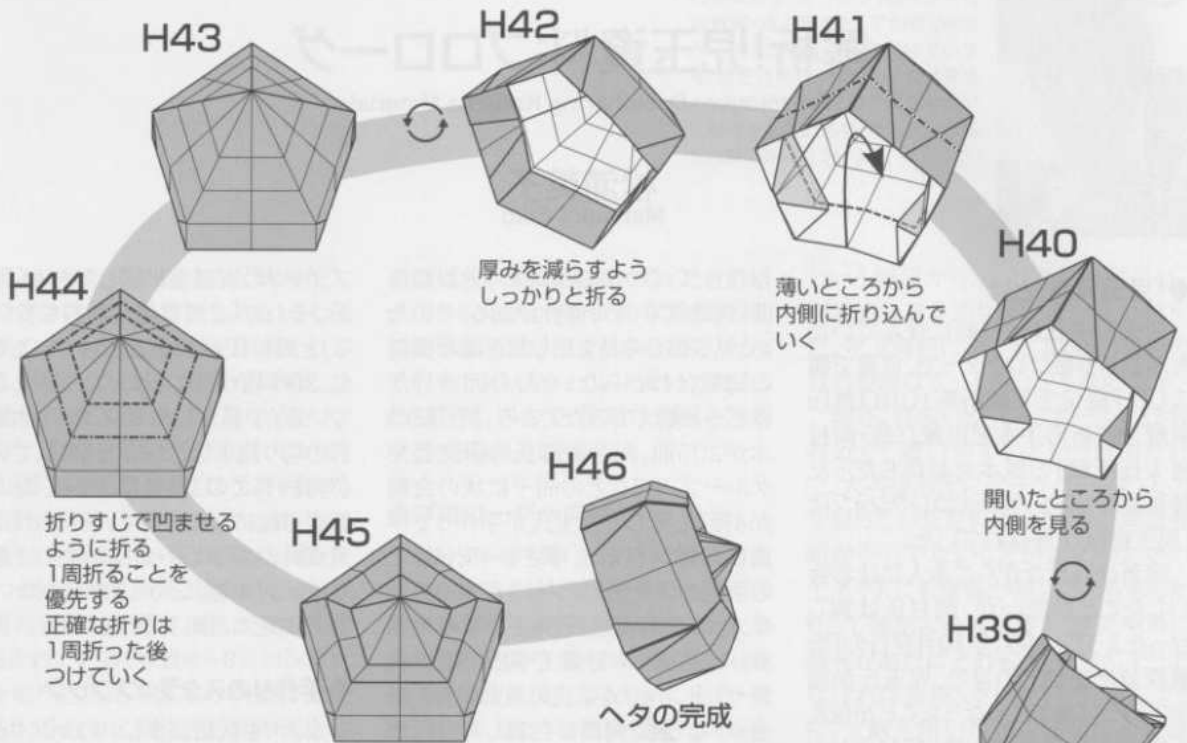


外を引き寄せ  
内に出たひだを  
片側へ寄せる

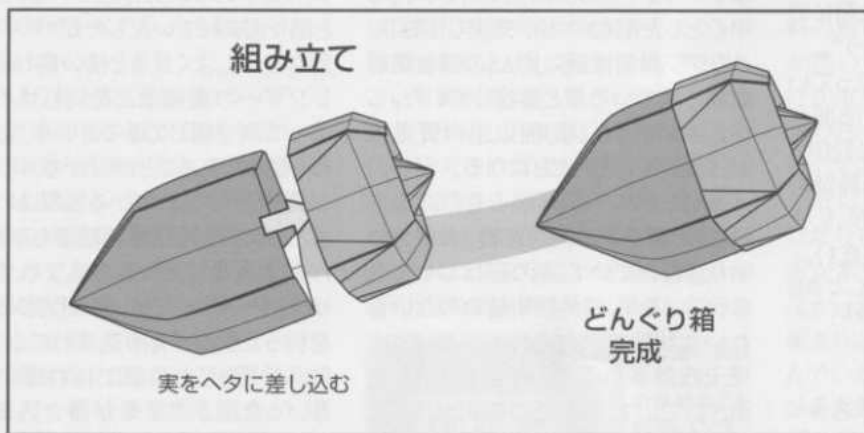
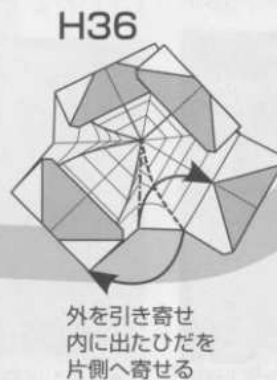
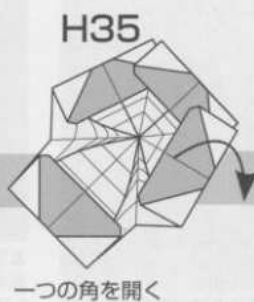
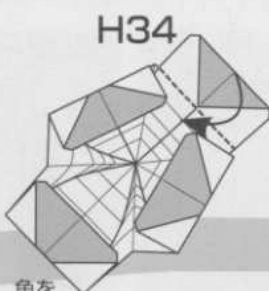
H33



外側を  
引き寄せ  
内側に出たひだを  
片側へ寄せる



角を内側へ折り  
寄せたひだを  
留める





# 解析! 児玉資料: プロローグ

A Prologue: Deciphering Kodama Materials

松浦英子  
Matsuura Eiko

## ◆「児玉資料」とは

児玉一夫氏は、長崎に住んでいた有名な折り紙コレクターで、自費で購入した『秘伝千羽鶴折形』(山口真氏所蔵)や『折形手本忠臣蔵』(故・岡村昌夫氏所蔵)の原本をお持ちだった稀有な人である。同氏のコレクションは「児玉資料」と呼ばれていた。

筆者は残念ながらご本人にはお会いしたことがないが、岡村氏は親しかったようだ。1991年10月発行の『折紙探偵団新聞』10号で、児玉氏が同年3月に81歳で亡くなったことが伝えられている。その数年後、岡村氏と山口氏が長崎へ赴き、ご遺族の許可を得た上でそのコレクションをヤマト運輸の箱(40×40×60cm)十数箱にできる限り詰めて持ち出したという\*。

ものすごく貴重な資料が詰まっていることは、筆者も四半世紀前から聞かされていた。資料は段ボールに封印されたまま、30年ほど山口氏の静岡の自宅に保管されていた。これが、いよいよ解禁になったのである(写真1)。

※この時の二人の旅費は自費であったし、ご遺族にもそれなりの謝礼をお支払いしているという。

## ◆資料の中身

持ち込まれた段ボールを数えると16箱あった。JOASの折紙図書館の蔵書を見ると、既に児玉資料の一部が



▲写真1: JOAS ホールに広げられた児玉資料

存在し、いくつかの箱はずっと以前に開けられていた可能性がある。そのため、児玉邸から持ち出した正確な資料の総数はわからないが、今回の分だけざっと数えてみたところ、折り紙の本が205冊、河合豊彰氏の研究会やグループ'67などの冊子に状の会報が4種類、そして児玉氏が手作りで作成した40×60cm、厚さ4~5cmほどの手製のスクラップブックが100冊余り、他に高濱利恵氏の紙人形の大判カレンダーや中野獨王亭氏の通信教育セット、内山光弘氏の重ね折りの紙セットなども、封筒に到着した日付が書かれてまとめられていた(写真2)。

200冊を超える折り紙本は、戦前の本もあるが、1960年代、1970年代を中心とした昭和の本が充実しており、このうち94冊は既にJOASの図書館に収蔵されている本と重複していた。しかし逆に言うと100冊以上の貴重書が一気にそろったことになる。

本は、カバーが外せるものは全て外され、裏表紙を開いた表3の部分に貼り込まれていて、折り筋はついてしまっているが、日焼けや破れのないきれいな状態で保存されている。また、児玉氏は多くの折り紙作家たちと交流されていて、折り紙の新刊が出るとすぐ購入し、著者と手紙のやりとりをしていたようだ。それが本やスクラッ

プブックの表紙裏に綴じてある(写真3)。それで「まだご健在の方も多から」と岡村氏が公開を渋っていたことも、30年寝かせてしまった一因となっている。手紙だけでなく、本の新聞広告の切り抜きなども貼り込まれている(写真4)。このようなことから、既に折紙図書館に収蔵されている本でも、児玉資料のものは取っておきたいと思ってしまう(本棚スペースが足りないのので、今のところ却下されている)。

## ◆手作りのスクラップブック

本よりも数倍悩ましいのがスクラップブックの扱いだ。かなり厚みがある上に100冊を超える。そして、セロハンテープやのりが劣化していて、さわると貼り込まれていたものがパラパラと落ちてくる。よく見ると使い終わったカレンダーの裏紙などを同じサイズに切って糸で綴じてあるという、完全手作り製本であることが分かる。

スクラップされているものはいろいろだ。作家の雑誌連載記事もあれば、作家本人の作品が貼り込まれていたり、児玉氏ご本人が、他の作家の作品を折ったものが貼り込まれていて、ぐらい折りをどの位置で折ればいいのかといった細かなメモが書き込まれていたりしている。青木光枝氏の「泉折り」の研究や、伊東万燿氏、阿部たづ



▲写真2: 中野獨王亭氏の通信教育セット



▲写真3: 高濱利恵著『世界の折り紙傑作集』に綴じ込まれたハガキ



▲写真4: 本の最後には新聞の切り抜きなども貼られている

○松浦英子(まつうら・えいこ)＝社会教育・成人教育としての折り紙をテーマに、地味に研究続けています。歴史は専門ではないし実は苦手(!)なのですが、歴史が分からないと研究できないので、明治以降の折り紙事情を調べています。



な氏といった、現在ほとんど情報が入手できない作家の資料もある。これら全部のファイルに目次が作成されており、作業した日付、資料が到着した日付が入っていて、とてもありがたい。

また、全部きちんと分類されていて、例えば『折り紙講義録』は千野利雄氏や中野獨王亭氏のものがある。後者は第10巻までである。『折容器』と題したファイルは、内山光弘氏ご本人が折った重ね折りの畳紙が、惜しげもなく貼り込まれている(写真6～8)。コンテンツを貼り込んだ未製本の状態の台紙もあり、その中に岡村氏の創作作品や手描き折り図やハガキを貼り込んだものがあった(写真5)。児玉氏がもう少しこの作業を続けられていたら、岡村氏のスクラップブックも加わっていたに違いない。

このように、児玉氏のスクラップブックは、日本の折り紙が伝承作品中心だった頃から作家が現れて、現代の折り紙へと発展していく初期～中期にかけての貴重な情報が詰まった一次資料なのである。しかし、書籍を除いて整理し直しても小さめのダンボール15箱分。来年、倉庫として使っていた場所が使えなくなるため、保管場所が懸念され一時は廃棄案も出たが、筆者の実家(石川県)に置く案で最悪の

事態は免れることになった。できればデジタル化(全ページの写真撮影)してからの保管が望ましかったのだが、それまでJOASホールに置いておくこともできないので、簡単な目録を作成次第、送られることになる。

### ◆プロローグへ向けて

1993年4月発行の『折紙探偵団新聞』19号で、岡村氏は児玉氏の三回忌を悼みながら資料にも触れ、「膨大なこれらの記録や多くの収集品を一般の調査研究に役立てるために保管・公開してくれるような機関が未だに存在しないという現実を知っていただきたい」と述べている。それから31年経過した現在も状況は変わっていない。私は近現代の研究を始めてからまだ5年程度である上、既に熟年世代に突入して岡村氏の悲願がかなえられるかどうか怪しい年齢。そのため、次世代の研究者の育成が喫緊の課題だ。

この記事の題に「プロローグ」を入れたのは、この児玉資料の整理を、研究者がほとんどいない近現代(明治～昭和)折り紙史研究の出発点にしたい

という願望からだ。しかし実際には、出発点にさえ辿り着いていない状況だ。児玉資料に限らず、JOAS図書館の資料整理はずっと滞りがちなのだが。

現在、住まいがJOASホールに比較的近くて通いやすいという理由だけで、大内康治氏にデータベースの入力を担っていただいている。古い本は情報が十分でないことがままあり、その上ネットにも情報が無いこともあったりして確認に時間を食う。歴史や本に興味があればそれも面白いが、そうでなければ面倒くさいだけだ。このように、文献を用いた歴史研究は事実確認だけで膨大な時間を消費する。

そのような面倒を背負った文献がこの度一気に増えるわけだが、児玉資料の解析によって、今まで人づてでしか聞いていなかったような話の裏付けが取れたりして、昭和、特に戦後以降の日本の折り紙史研究は、かなり進むのではないかと期待している。

既に、数人の有志にはお手伝いいただけることになっているが、まだ筆者が割り振れる仕事を準備できていなかったり、皆さんそれぞれ忙しくて集まりにくかったりして、遅々として進んでいない。まずは少数精鋭で進めたいと思っているが、もしこの記事を読んで研究と整理に参加してみたいと思う方がいたら、編集部までご連絡いただきたい。



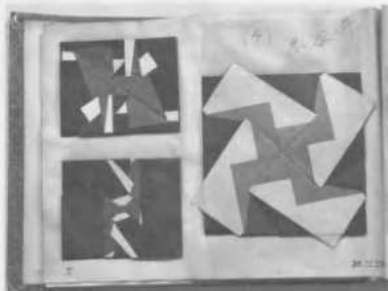
▲写真5:製本される前と思われるスクラップブックのページ。岡村昌夫氏作の恵比寿様と大黒様の完成品と折り図、手紙が貼り込まれている



▲写真6:表紙もパッケージの厚紙などを利用している



▲写真7, 8:内山光弘氏の畳紙折りのスクラップブック。内山氏本人の作品が直接貼り込まれている



# ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

## 第70回 折りパターンが一瞬で現れる不思議なボールペン： SwitchPen- 開発秘話インタビュー

A Wondrous Ballpoint Pen, SwitchPen, with Folding Patterns  
Appearing in an Instant - Interview on the Development Story

CRUSHMETRIC社のSwitchPenという商品(図1)をご存知でしょうか。一見、何の変哲もないボールペンですが、後端のレバーをグイッと押すと、ペン先が出てくると同時に表面にダイヤカットパターンまたは吉村パターンとして知られる幾何学的な凹凸パターンがパッと現れます。そうしてまたレバーを戻すと、ペン先が収納されると同時に表面はもとのツルツルな状態に戻ります。この変化は一瞬で起こるため、初めて目にした人はみな驚くに違いありません。

私は2022年にオーストラリアで開催されたコンベンションで、このSwitchPenをプレゼントとして頂いて、その動きの面白さに感動しました。

今回、SwitchPenを開発・販売している、香港に拠点を構えるCRUSHMETRIC社の張啓業さんに、この魅力的な商品についてインタビューをしてみました。

—(三谷)このような面白い商品を開発された経緯を教えてください

(張)2018年に現CRUSHMETRIC社の社長が彫刻家兼アーティストであるノア・デレッダ(Noah Deledda)氏の空き缶アート(無地の空き缶の表面に指で幾何学的な折り目パターンを作り出すアート)に興味を持ったのがきっかけです。ノア・デレッダ氏の作品のような独特な外観を持つ商品を作りたいことを思い立ち、さまざまな試行錯誤を経て、最終的に現在の商品に仕上がりました。コロナ禍の最中ということもあり、ノア・デレッダ氏には直接お会いできずに2年間にもおよぶメールでのやりとりと、中国の工場での200回以上の試作を経て、ようやく完成しました。

—アーティストのノア・デレッダ氏はどのような方ですか?

現在、50歳前後の男性アーティストで、1990年代から飲料缶の表面に幾何学的な凹凸模様を施す作品を手掛けるようになりました。マイアミに住んでいましたが半年ほど前から香港に滞在し、今は一緒に新製品の開発を行っています。彼は折紙に大変興味を持っ

このコーナーでは、折紙紙に関連した幅広いトピックを探索してご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽に webman@origami.jp まで電子メールでお寄せください。

三谷 純  
Mitani Jun

ているようですが、アートとして折紙作品を作ることはないようです。彼はとても気さくな性格で、日本の折紙作家と交流ができることを願っています。

—商品発表後の売れ行きはどのような感じですか?

これまでオンラインのみで販売をしてきましたが、SNSを介した口コミで評判が広がり、ここ1年間で2万本ほども売れています。

商品の主要なマーケットはアメリカと中国ですが、日本でもそれなりの数の販売実績があります。三谷さんがTwitter(現X)で紹介くださったときには、その動画の再生数が80万を超え、大変な反響でした。ありがとうございました。これまでの実績を踏まえて、現在は実店舗での販売を目指しているところです。

—ペンに続いて、椅子も商品化されましたね

はい。AutoHedron Chairという商品です。外観は銀色の円筒形のシンプルなものですが、ペンと同じ仕組みで



図1 SwitchPen。レバーの上げ下げで表面に折り目のパターンが現れる



図2 AutoHedron Chair

○三谷 純(みたに・じゅん)=1975年静岡生まれ。筑波大学大学院システム情報系教授。コンピュータグラフィックスに関する研究に従事。折紙の幾何に興味を持ち、コンピュータを用いた折紙の研究を行っている。



座ると少しだけ座面が下がるのと同時に表面に凹凸が現れます(図2)。立ち上がると、また元の形に戻ります。さらに現在は、タンブラーの開発もしていて、まもなく発売できる予定です。

——瞬でパターンが現れるのは、どのような仕組みになっているのでしょうか？

ペンの場合は、表面に銀色の筒状のシートを被せているだけなので、それを取り外すと中の構造を見ることができます。中には、あらかじめ凹凸のパターンを持つプラスチックのボディ

が配置してあって、それに銀色のシートが押し付けられることで、パターンが現れます。プラスチックのボディにはスリットが入っていて、レバーを下げるとスリットの両側がスライドすることで少しだけペンの本体が短くなるような仕掛けになっています。

——異なる凹凸パターンが現れる商品を開発する予定はありますか？

はい。もちろんです。これまでの商品のパターンとは違う、ノア・デレッタ氏の作品のようなパターンを実現したい

と考えています。ただ製造のために必要な金型は大変高価で、今すぐには難しそうです。

——いろいろなことを教えてください、ありがとうございます

ありがとうございました。今後は是非、折紙コミュニティの方と交流する機会をもてたら嬉しいです。

以上、張さんへのインタビューでした。今後、どのような新商品が登場するのか楽しみです。

やまぐち真の回想録

# マコトか。

Makoto or Not?  
Memoirs by Yamaguchi Makoto

## 第6回 ことの始まり

Knowledge and Wrong Speculation

やまぐち真  
Yamaguchi Makoto

「これは切らずに折った作品なんや」と木下一郎さんが特に自慢していた作品は、レンガを積み重ねた模様を平織りの技法で折り出した暖炉で、これを「レンガ折り」と呼んでいた(藤本修三氏のあじさい折りが誕生するずっと前の話だ)。初期のおりがみはうすでは、折り紙作家と呼ばれる方々の個展を月替わりで開催していた。木下さんの暖炉が展示された個展は、その最初期の1989年開催だった。

Origami Exhibition  
木下一郎〈不切一枚折〉折紙展



▲個展の案内はがき。奥に写っているのが煉瓦折りの暖炉

「レンガ折り」は、考えたのはどちらが先なのかと、後に故・桃谷好英氏との争いの種にもなった。この個展の後、私は切り込みを入れずに1枚で折ることを「不切一枚折り」と呼んだ。ところが、後に小松英夫さんに教わったのだが、「不切正方形一枚折り」という表現が、笠原邦彦さんの『おりがみ3 超難解:マニア向き作品集』(1976年)で既に見られるという。また前々回のコラムで扱った内山興正氏の『純粋折り紙』(1979年)にも、「不切正方形一枚折り」ではないが、「不切正方形一枚」という言葉が出てきていた。

先日、ある著名な折り紙作家が受けた取材で、「『不切正方形一枚折り』。決してハサミを使わずに正方形1枚のみ、という江戸時代から続く決まり事を、一貫して守っている」と述べた。これは、折り紙の歴史を変えかねない、新しい歴

史観ができてしまう可能性さえある発言だ。

「江戸時代からの決まり事」であるという事実は無い。勿論、切らずに正方形1枚で折る作品は江戸時代にもあったが、多くの作品はハサミが使われていた。しかし、正方形1枚で切らずに折ることを制約とし、折り紙の流儀の一つとして確立させ呼び名を与えたのは、戦後に誕生し現代折り紙の基盤を築いた折り紙作家たちなのだ。

知らないことは危険だ。私も含め著名な作家のうかつな発言は、歴史を知らない若い折り紙愛好家・作家たち、また卒論で折り紙の歴史を取り上げようとする学生に、間違った知識を与える可能性がある。今、戦後の折り紙史をきちんと研究して共有すべき時なのかもしれない。



# 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

仮屋 寛悟

Kariyazono Kango

## 95冊目 『折り紙全書』河合豊彰 著

"Compendium of Origami" by Kawai Toyoaki

### 【はじめに】

今回紹介させていただくのは河合豊彰氏の『折り紙全書』（主婦と生活社、昭和49年10月30日発売、図1）。200ページ超の分厚いがっしりとした造りの折り図集である。

著者である河合氏については折紙探偵団マガジン116号の当コーナーにて西川誠司氏が紹介しているため参照されたし。西川氏も述べている通り、河合氏の著書が創作折り紙のきっかけとなった著名な折り紙作家には枚挙にいとまがない。その中に並べるほどの立場でもない世代も異なる私だが、実は私にとっても河合氏の著書である本書は、聖書と呼べる存在だ。

私と本書との出会いは私が折り紙にハマる前から家にあった（親の友人のついででまとめて譲ってもらった本の中に紛れていた）だけだが、のちに私が最も読み込んだ折り紙本となる。ちなみに『母と子の折り紙』（主婦と生活社、昭和62年9月20日発売）という本書とはタイトルの違いとハードカバーかソフトカバーかの違いくらいしかないほぼ同じ内容の著書があり、私の手元にあったのが『母と子の折り紙』だったためそちらのほうがなじみ深い。後年になって『折り紙全書』という別名を知ったときは、その内容を知るがゆえにたいへん納得がいった。なぜなら本書は膨大な幅の収録作品を有し、それらを通して創作や折り紙との向き合い方を学べる、まさに「折り紙全書」だったからだ。

### 【幅広い収録作品と、創作への誘い】

まずは表紙を見てみよう（図1）。書籍タイトルの周りを様々な色の様々な用紙で作られた動物たちが囲んでいるこの表紙に、本書の魅力がすべ

て詰まっていると言っても過言ではない。表紙だけで本書からいったいどれほどの折り方・技法・作品の工程が学べるのだろうかという期待でワクワクする。端正なデザインでインサイドアウトの鞍を背負ったウマを筆頭に、4本脚の折り出しが面白いウシ、手でちぎった紙を貼りつけ縞模様を表現したトラ、体は直線的なのに耳の表現だけで全体を柔らかに見せているウサギ、顔面の表現が面白いヒツジやコミカルなサル、特徴をとらえそれぞれ異なる解像度でデフォルメされたデザインのイノシシ・ニワトリ・ネズミ・イヌ、段折りによる躍動感を表現したヘビと辰……折り紙の無限の可能性を思わせる。これだけ異なる技法、コンセプトで創作された動物たちが並んでいると、これらが十二支という共通点を持っていることに気付くのに少しの時間を要するほどだ。干支の順番に並べていないのが良い。動物が並んでいると思って1周眺め終わった後に「あ、干支だ」と気づいて2周目を眺めたくなるデザインだ。

カラー口絵では、本書の構成に則って伝承折り紙と河合氏の創作折り紙が紹介されている。伝承折り紙のページでは「たからぶね」と連鶴が並んでいるが、「たからぶね」を伝承折り紙としてもインサイドアウト作品としても紹介していることと、連鶴というユニークなジャンルも紹介している本書の収録作品の幅に驚かされる。一方河合氏の創作折り紙は、美しい背景づくりや紙の質感まで伝わってくるように撮影されている。工程図でも折り図だけでなく写真を多用して解説しているが、モノクロでも実に分かりやすい作りになっている。

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<https://origami.jp/Library/>にアクセスしてください。

工程図では、冒頭に「基礎折り」という章を設け、それを引用し基礎の続きから折り始めるという構成が多用されている。基本形は基礎A～Jと名乗っているが、実際のところ基礎Aは鶴の基本形であり、基礎C～Eはアヤメの基本形……といずれもどこかで見覚えのある基本形である。だが本書では「○○の基本形」と名乗っていない点が私は好きだ。「この基本形は、誰かの作った何かの作品の基本形ではない。この基本形でお前が作品を作る時、この基本形はお前のその作品の基本形となるのだ」という著者のメッセージを感じる（※私の妄想です）。鶴の基本形である基礎Aは、実に珍しいダイヤ型ではなくブック型からスタートする折り図を収録している点も必見だ（図2）。『折り紙全書』を名乗るにあたって、あまり知られていない方の折り方をあえて掲載したのではないかとさえ思ってしまう。

そんな工程図で説明される河合氏の創作作品の中で私のお気に入り、直角二等辺三角形の基本形などから作られる動物作品群（図3）である。

同じ基本形（図4）で動物の前半身・後半身を作り分けるのも面白いが、作品に合わせた表現方法や紙の選び方も勉強になる。アフリカ象の脚は太く立体的に表現し、立体的にしたときにできるしわで爪まで表現されている。サイは折筋の浮き上がりや折り返した紙の縁を用いて、鎧のような皮膚が表現されている。カバはつるつるした光沢のある肌を思わせるよう、閉じた紙を広げて表現。水牛の顔の見立てやカールした角も作品をエキセントリックに見せる。だがこういった表現



○仮屋 寛悟(かりやその・かんご)  
=鹿児島県出身。1993年生まれ。先  
日4月に折り紙仲間と下北半島へ旅  
行に行きました。グルメと景勝地、温  
泉でリフレッシュしたことで、折り紙  
のモチベーション高まる旅行となり  
ました。



は作例や実際の動物を観察して得ら  
れるものであり、本書ではあえて明確  
に工程が示されていない。こうして読  
者を創作活動の第一歩へ誘っている  
のである。

ほかにも切り込み満載のやまあらし  
やおながどり、正方形以外の形からス  
タートするリアルな花作品、1枚折り  
で折るカブトムシと複合で折るクワガ  
タやクモなどの虫作品、面作品や面を  
組み込んだ人物像作品、巻末には折

り紙のおもちゃ(紙でつぼうや紙飛行  
機など)も収録されており、本書がい  
かに「折り紙全書」であるかがお分か  
りいただけたらう。

### 【折り紙への向き合い方】

収録作品に注目して本書を紹介し  
てきたが、本書が「折り紙全書」たるゆ  
えんはそれだけにとどまらない。項「折  
り紙を始める前に」では紙・用具の選  
び方から、紙の折り方・裁ち方、紙の裏  
打ちの仕方が、巻末では折り紙の歴史  
も紹介されている。

そんな内容の充実している一方で、  
本書の冒頭では「折り紙とはそもそも  
折る人の個性の差で、誰が折っても  
同じ形にできるとはかぎらない」とも  
謳っている。本書は折り図集でもある  
にもかかわらず「同じ形にできるとは  
限らない」とはこれはいかにだが、そ  
の後「極端に言えば、それでもよい」  
「自分自身で満足したとき、それは立  
派な作品なのです」と肯定している。  
誰かに認められるかどうかよりもまず  
自分自身が作品を認められなければなら  
ない。これはSNSなどで他人からの  
評価が可視化・数値化されやすい現  
代においても刺さる言葉だと言え  
る。

また、河合氏は折り紙の楽しさを次  
のようにも述べている。

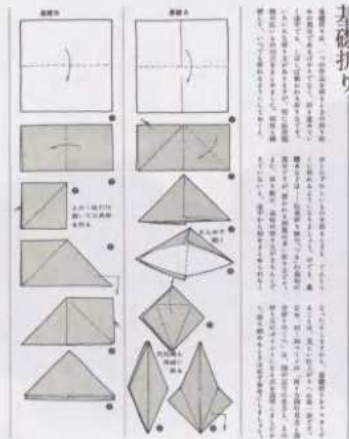
「一枚の紙がもつ無限の可能性を  
引き出していき、これが折り紙の最大  
の楽しさです」

この言葉は創作を行う方々に広く  
伝えたい言葉である。少し創作折り紙  
を覚えると、まるで自分が紙を支配し  
自分が折り紙の新たな可能性を開拓し  
ているような気分にもなるが、実際  
はそうではない。紙の持つ無限の可能  
性はもともと紙が持っているもので  
あり、折り紙はそれを引き出して楽しむ  
ものであるというこの言葉は、創作折  
り紙を始めて久しい今でも・今だから  
こそ、大切にしたい言葉である。しかも  
「最大の楽しさ」とあるように、同時に  
他にも折り紙の楽しさがあるというこ  
とも示唆している。真理を突いた端的  
な言葉だと私は思う。

発売されてから50年も前の本だ  
が、現代にも通じる折り紙への向か  
い方まで届けてくれている『折り紙全  
書』。ぜひお手に取っていただきたい。



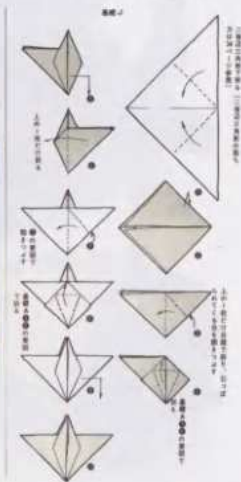
<図1>表紙



<図2>基礎折り(珍しいブック型の  
鶴の基本形の折り図)



<図3>動物作品群



<図4>様々な動物作品に  
用いられる基礎J

## 今号の折り図・展開図掲載作品より 解説：前川 淳 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Maekawa Jun (P.20-21)

「はねだし三角ユニットA,B,C」、「はねだし三角ユニット- 凹組み」作：布施知子 (P.4)

Triangular Unit Model A,B,C, Triangular Unit Model with Concavity: Fuse Tomoko (P.4)

■側面を直角二等辺三角形の三角錐として、6、12、30枚などで組むことができるユニット作品は、菌部ユニット以来の王道である。この作品は、その構造のバリエーションの泉がまだまだ尽きていないことを示している。



「どんぐり箱」作：苅谷知弥 (P.8)

Acorn Box: Kariya Tomoya (P.8)

■ドングリらしさは、実の本体と殻斗(かくと:実と枝をつなくおわん状の部分)のフィット感にあると、あらためて思った。殻斗は、図ではヘタとされているが、ハカマ、帽子、パンツなどとも呼ばれる。この作品はそれを蓋にした。





「ズール」作：富永和裕(P.27)

Zuul: Tominaga Kazuhiro (P.27)

■この恐竜のごつごつしたイメージから、蛇腹折りが向いているのではないかと漠然と思っていたが、作者は、角度22.5度の構造で、無理なくきれいに折りやすく仕上げた。脚先の爪の表現がワンポイントとなっていて面白い。



「グラマン F6F ヘルキャット」作：南島和英(P.26)

Grumman F6F Hellcat: Minamijima Kazuhide (P.26)

■モデルとなった戦闘機は、空母に艦載するため、折り畳み翼を持つ機体として知られる。同機は翼をひねることによってそれを胴体に平行に寄せるように置む独特の構造を持つが、その機体が、一枚の平面になる完全折り畳み式(?)で表現されたわけである。



勝崎友太折り紙作品誌上展示  
Origami Works by Katsuzaki Yuta



ゴリラ



カバ



サイ



ガラバゴスゾウガメ



うさぎ



ハムスター



シェットランド・シーブドッグ



オオコウモリ



エンゼルフィッシュ



貝殻



牡蠣



チョウチンアンコウ



丹頂



フゲ



コウテイペンギンの親子



フゲ



クラゲ



## 「暫」原作者による添削

Shibaraku: Comments by the Original Creator

折紙探偵団東海友の会の高校1年生、古園井信輔さんが折った「暫」を、原作者目線で添削していただいた。「しっかりとした基本技術が身につけていることがよくわかる、非常に高品質な仕上がりに驚きました。しかしここで満足せずに、さらにもっともっとステップアップを目指してほしいと思います」(北條高史氏)とのこと。各写真に付いているコメントとあわせてご覧いただきたい。



全体的に、折り図に忠実に加工できている。作者の作例より小さい紙であるにもかかわらず、ていねいな作業がすみずみまで行き渡っているぞ!



大刀は、真横から見たときにも「スムーズにカーブしているように見える状態」をイメージして調整するとよい。厚く重なった部分では、層のひとつひとつの間に糊を入れると形状をコントロールしやすくなる。押さえつけたときにあふれ出さないように、糊の量にも気をつけよう。



① 緑矢印で示す大刀の部分はこのように、必ずしも「実際に大刀が繋がる場所まできちんと寄せた状態」になっていなくてもよい。紙の大きさや厚みによって作業可能なことが変わってくるので、臨機応変に対応しよう。

② 腿の側面(赤矢印で示す部分)は、さらにめくって奥側に回すとよい。

③ 右手の扇子の周辺は紙が重なっていて厚いので、「手のひらから扇子が垂直に生えている」形になりがちだ。扇子をもっと親指側に曲げて、手に持っている雰囲気になるとかっこよくなるぞ。



紙の厚さを手懐けて、背面の多数の部品をバランス良く配置できている。浅草寺の暫ブロンズ像を見ると、各パーツの意味を理解しやすくなるぞ。さらにそれだけにとどまらずに、あえて「この折紙作品としてのかっこいいまとめ方・仕上げ方」を模索してみるのも有りだろう。

各地の折紙探偵団例会より

From the Regional Meeting

東京例会

Tokyo Group



Mitsuda Shigeru



Enomoto Masayoshi



Okada Atsuhiko



Okada Atsuhiko



Enomoto Masayoshi

関西例会

Kansai Group



Kobashi Kiyotaka



Inayoshi Hidehisa



Inayoshi Hidehisa



Inayoshi Hidehisa



Inayoshi Hidehisa



Hishii Kaito

Hishii Kaito



Inayoshi Hidehisa



Fujimoto Sachiko



Yuki Shingo



Kobashi Kiyotaka



Yuki Shingo

東海例会

Tokai Group



Nakamura Kosuke



Minamijima Kazuhide



Tanaka Mikito



Muraki Atsunori



第151回

グラマン F6F  
ヘルキャット

Grumman F6F Hellcat

南島和英

Minamijima Kazuhide

Created: 2018/03

Paper Size: 35x35cm

Width: 19cm



**題**材:グラマン F6F ヘルキャット  
は米国グラマン社が開発した艦上戦闘機で、零戦の強力なライバルでした。F6Fが本名で、ヘルキャットは愛称になります。

**構造:**この手の飛行機を折ろうとしたときに真っ先に思いつく形かと思えます。王道構成の一方で、カド配分に工夫の余地が少なく、かえってあまり融通のきかない構造でもあります。

とくに、尾翼の領域が不足してボリューム不足になったり短胴になりやすいので、同様の構造で飛行機を折る際は注意したいポイントです。今回は、変則角で無理やり紙効率を上げることで対処しています。後述しますが中翼機との相性が比較的良好なようです。

**折り畳み:**シンプルな蛇腹構造ですが、一部変則角があります。整数比角度系の線をベースにしていますが、基準のあいまいな部分もあるので、調整しながら折ってみてください。

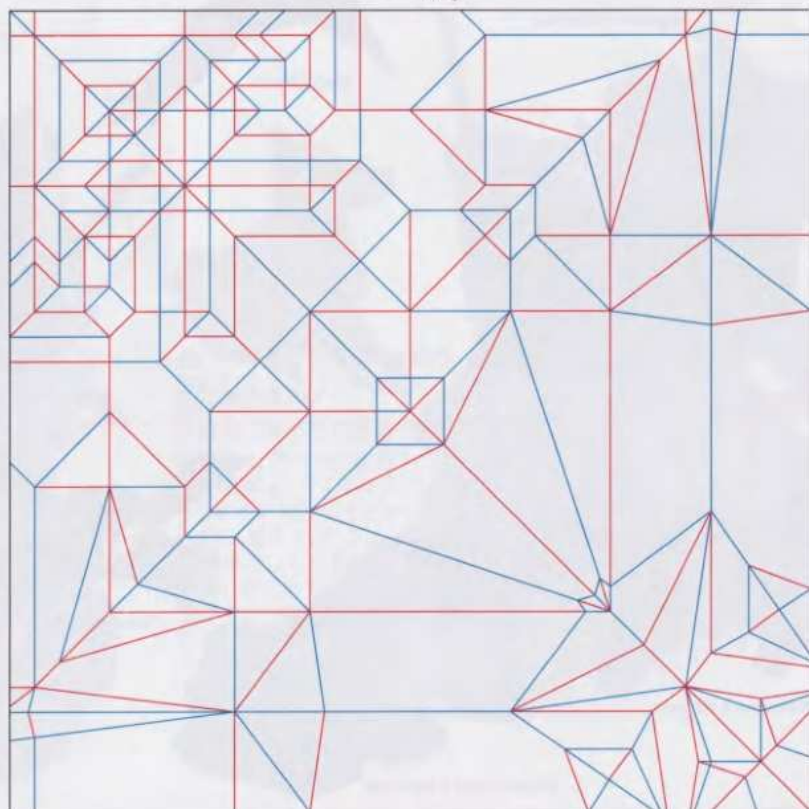
**仕上げのヒント:**両面同色で硬めのしっかりした紙がよいです。腹側は斜めに折り込み、尾部のカドをかぶせてまとめます。プロペラは3枚を同じ方向へ斜めに折り、バランスを見ながら3方向へ均等になるようにします。胴体や風防(窓)の連続的な立体曲面は、試し折りで事前に十分検討しましょう。

かっこよく仕上げようと思ったとき、

技術もそうですが、どこをカッコよく見せたいかを意識することの方がずっと大切です。題材にした機体をよく研究していただくこと、さらに手間を惜しまないのであれば、その他の色々な飛行機をたくさん観察するのが逆に効率的です。特徴を捉えるには、同種のものとの違いを知るのが最も手っ取り早いです。

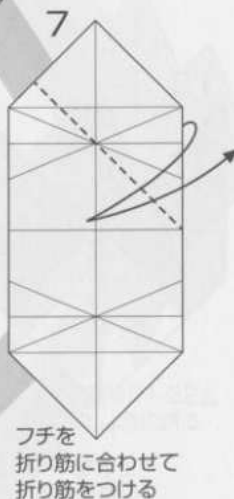
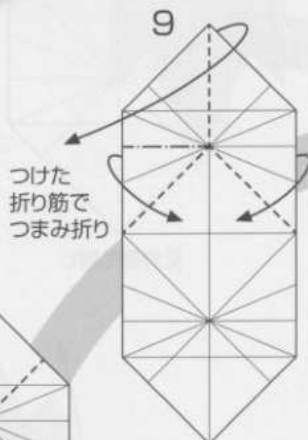
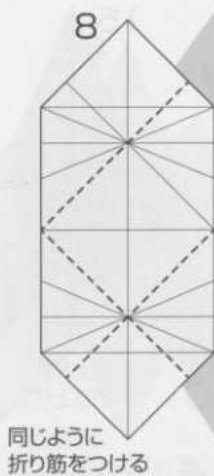
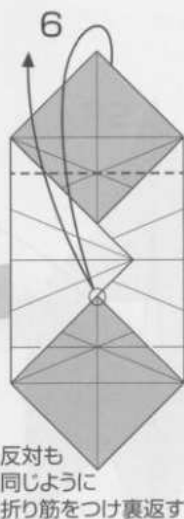
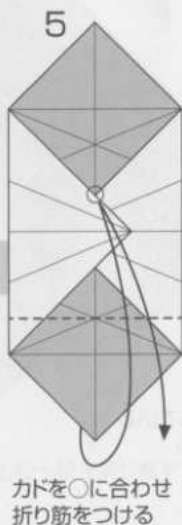
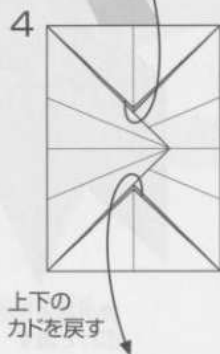
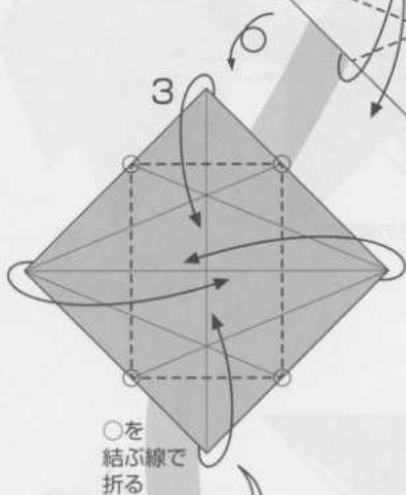
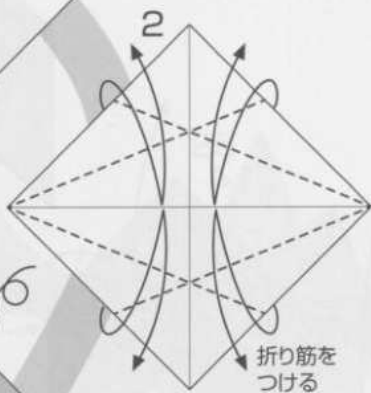
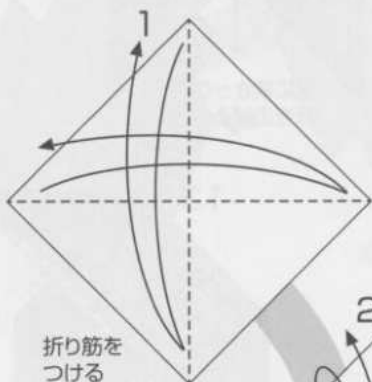
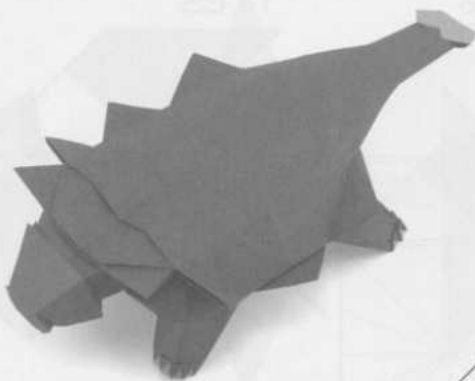
また、見逃しやすい部分ですが、飛

行機は正面から見たシルエットがとても重要です。F6Fは胴体の低い位置に主翼がついた低翼機ですが、若干中翼気味の機体といえます(cf.低翼機の零戦、中翼機のF4Fワイルドキャット、高翼機…etc.)。展開図通りに折れば適切な高さに出てくるよう調整してありますが、主翼は中ほどから上に折れて上反角がつくので注意してみてください。

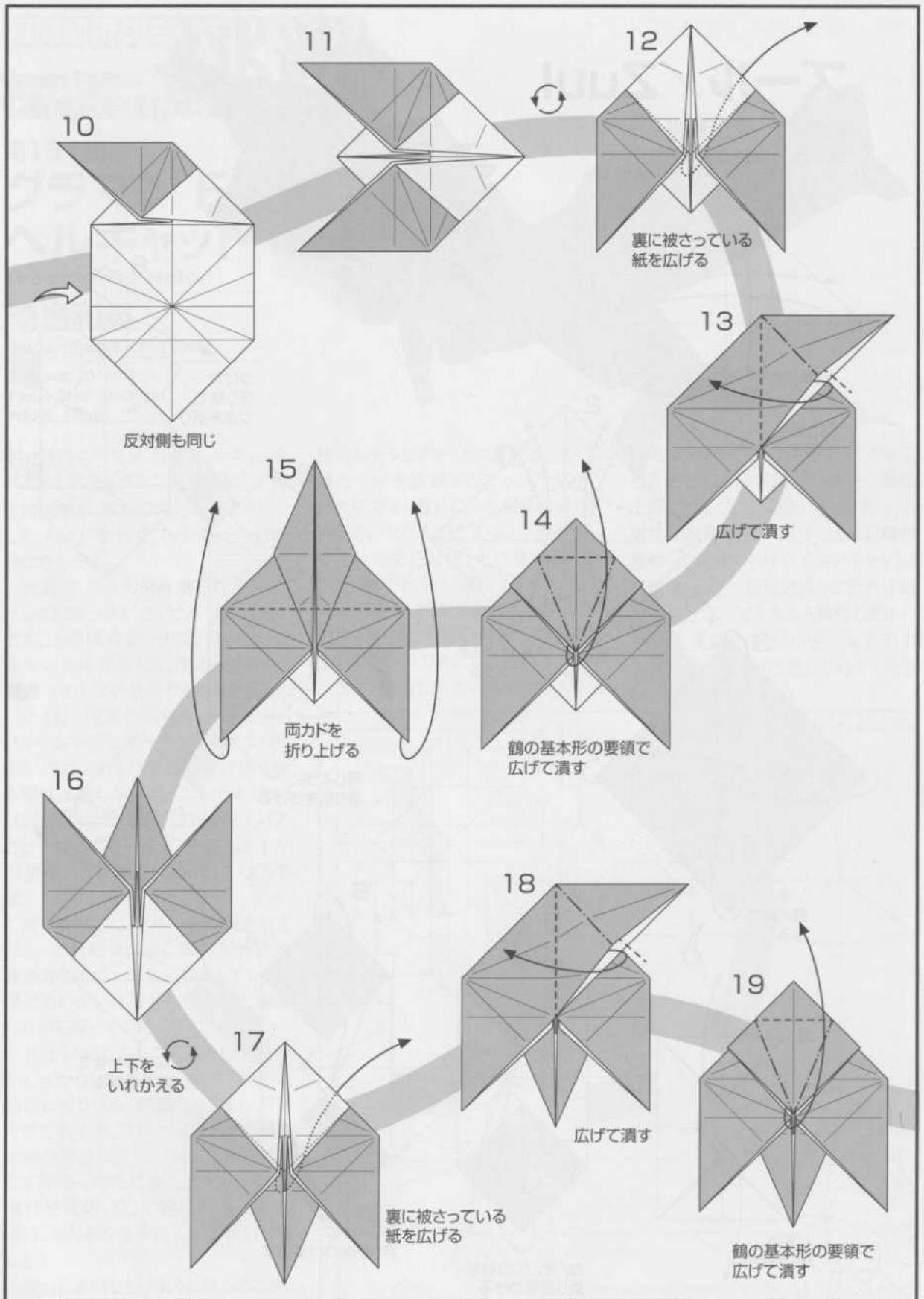


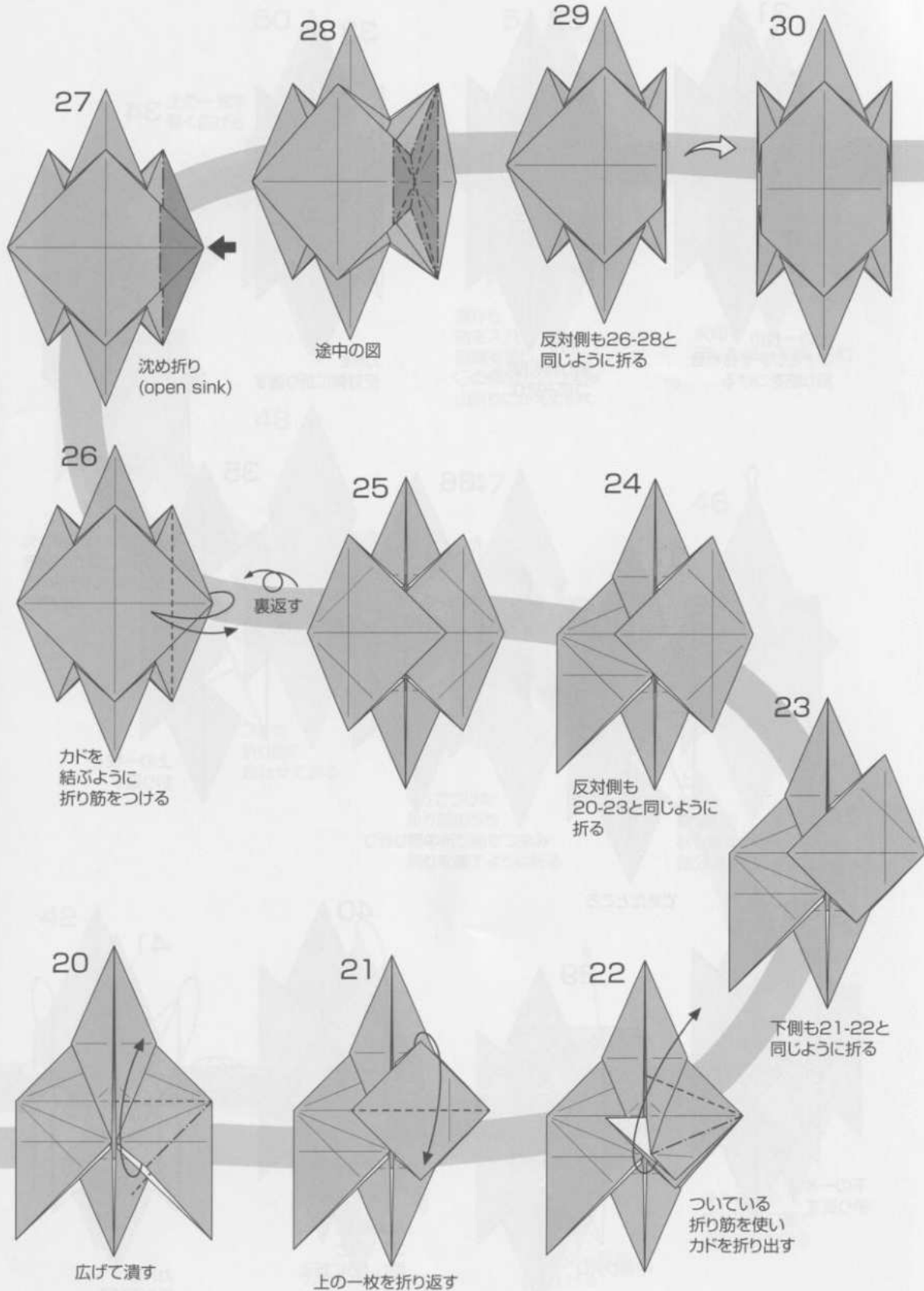
# ズール / Zuul

創作 図 富永和裕  
by Tominaga Kazuhiro

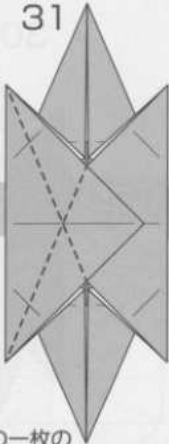








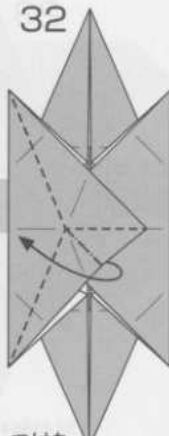
31



裏返す

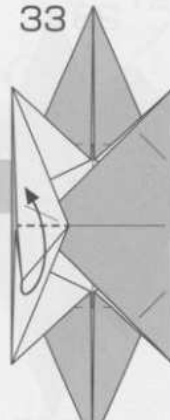
上の一枚の  
フチとフチを合わせ  
折り筋をつける

32



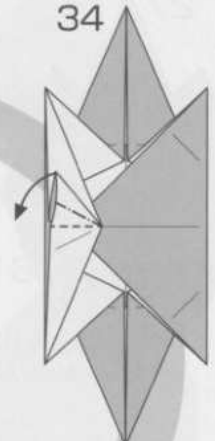
つけた  
折り筋を使い  
つまみ折り

33



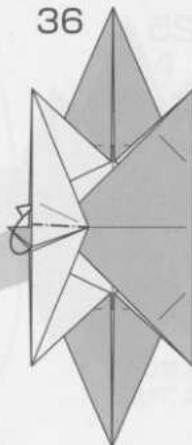
カドを  
反対側に折り返す

34



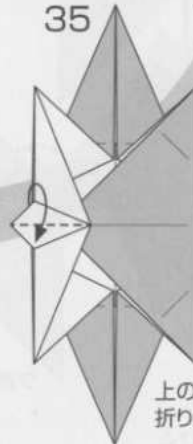
広げて潰す

36



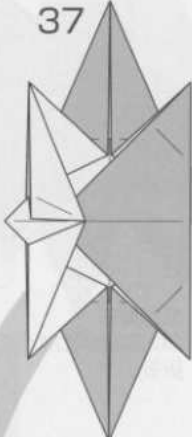
中割り折り

35



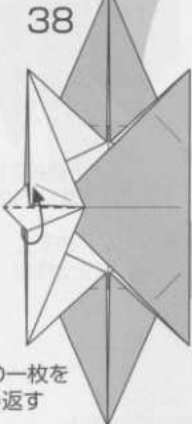
上の一枚を  
折り返す

37



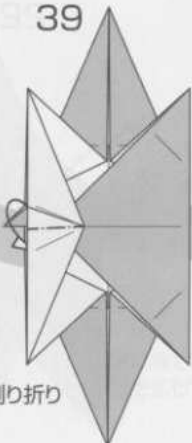
できたところ

38



下の一枚を  
折り返す

39



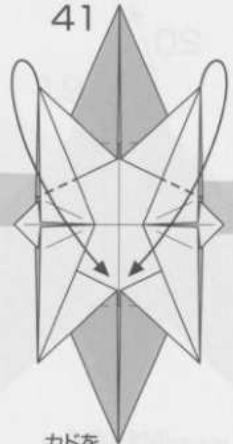
中割り折り

40



反対側も  
31-39と  
同じように折る

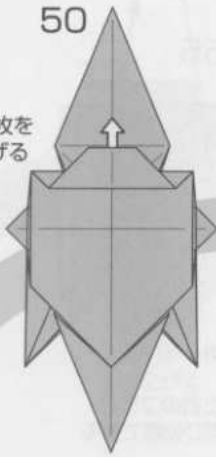
41



カドを  
折り下げる

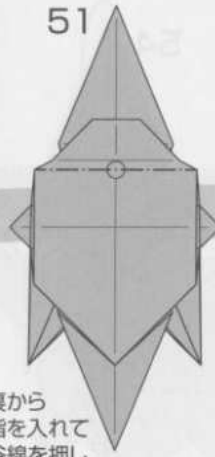
50

上の一枚を  
軽く広げる



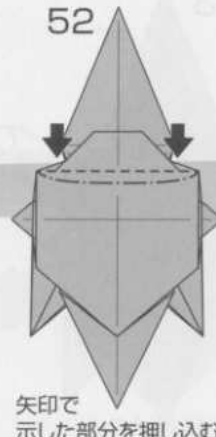
51

裏から  
指を入れて  
谷線を押し、  
○の部分からつまみ  
山折りにかえていく



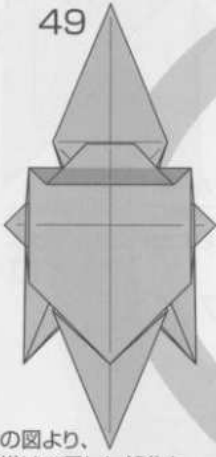
52

矢印で  
示した部分を押し込む



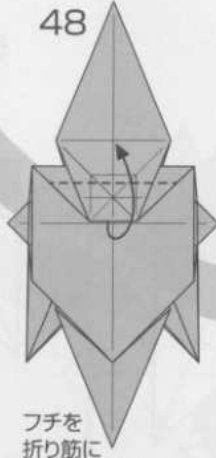
49

次の図より、  
網掛けで示した部分を  
沈め折り(closed sink)  
にしていく



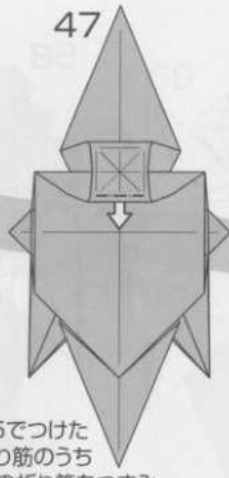
48

フチを  
折り筋に  
合わせて折る



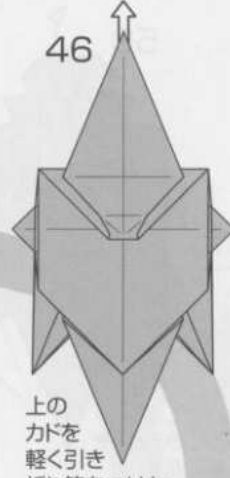
47

45でつけた  
折り筋のうち  
下の折り筋をつまみ  
周りを潰すように折る



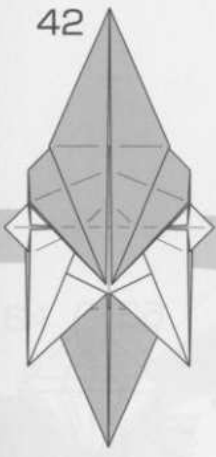
46

上の  
カドを  
軽く引き  
折り筋をつけた  
部分をふくらませる



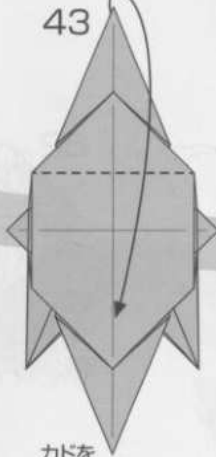
42

裏返す



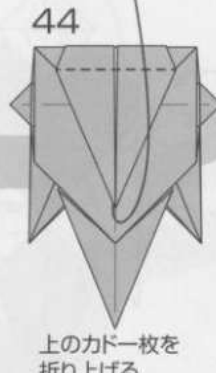
43

カドを  
結ぶように折る



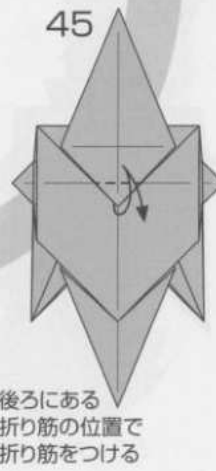
44

上のカド一枚を  
折り上げる



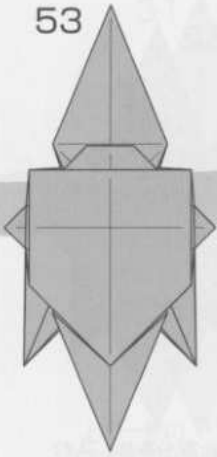
45

後ろにある  
折り筋の位置で  
折り筋をつける

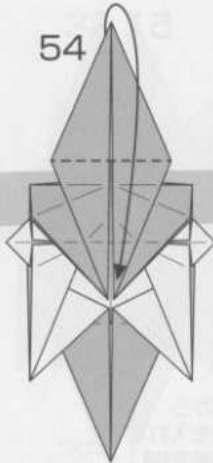




53

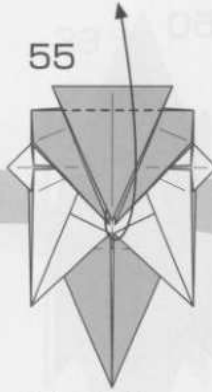


54



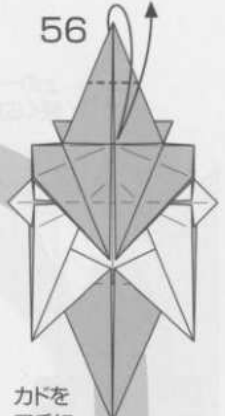
カドを折り下げる

55



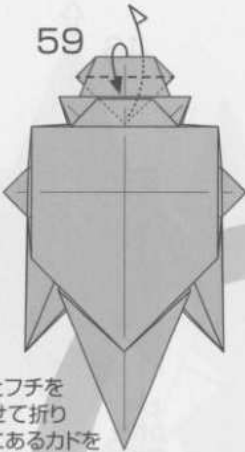
左右のフチと  
同じ位置で折る

56



カドを  
フチに  
合わせ折り筋をつける

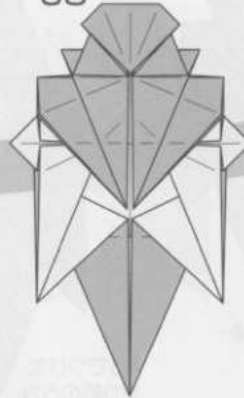
59



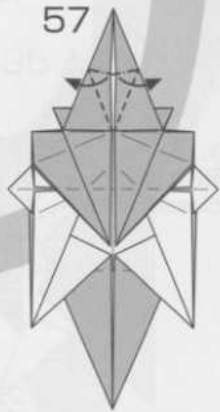
フチとフチを  
合わせて折り  
後ろにあるカドを  
手前に返す



58

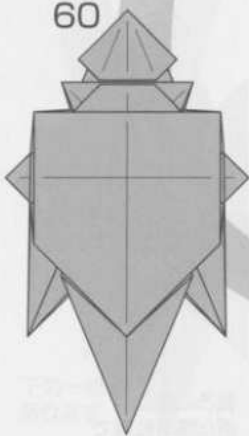


57

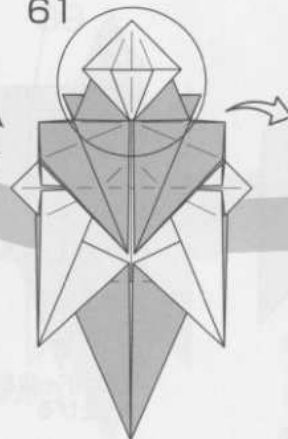


つけた折り筋を使い  
広げて潰す

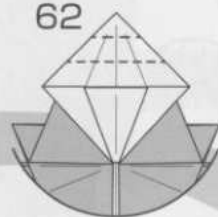
60



61

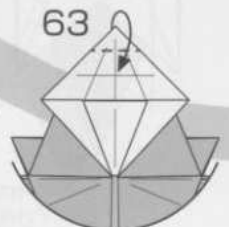


62

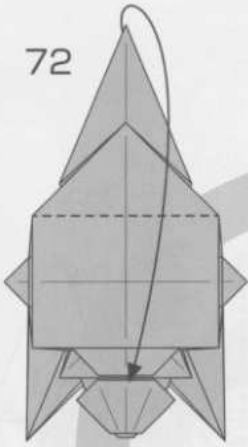


3等分の折り筋をつける

63



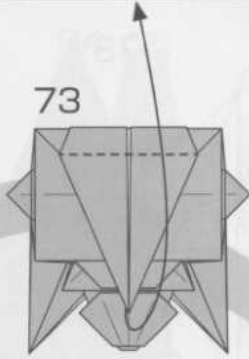
72



カドを結ぶように折る

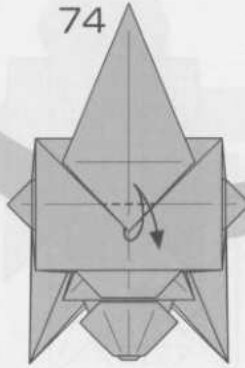
裏返す

73



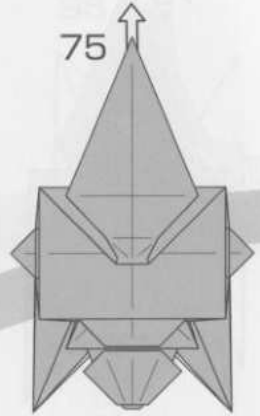
上のカド一枚を  
折り上げる

74



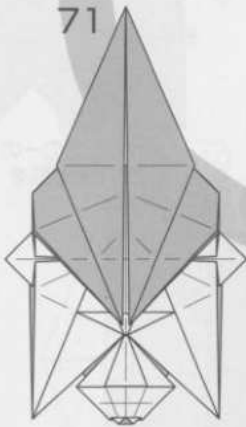
後ろにある折り筋の位置で  
折り筋をつける

75

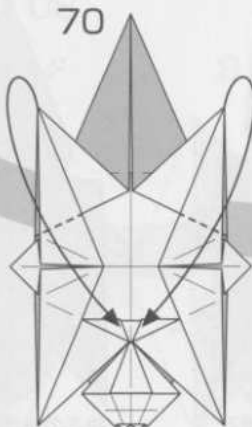


上のカドを軽く引き  
折り筋をつけた部分を  
ふくらませる

71

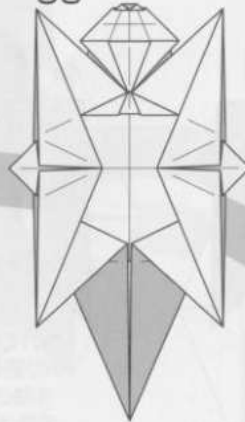


70

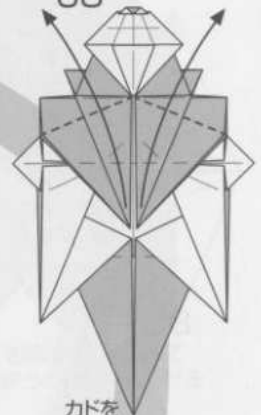


カドを折り下げる

69



68



カドを  
折り上げる

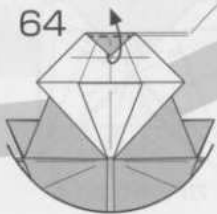
裏返す

65



カドを下に折る

64



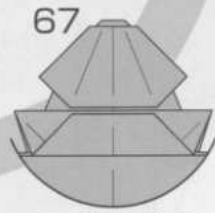
少し残して折る

66



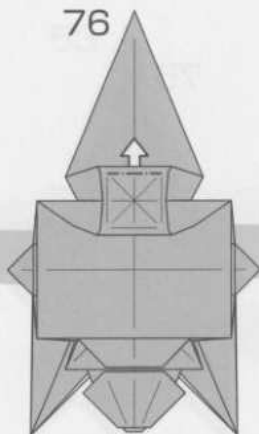
裏返す

67



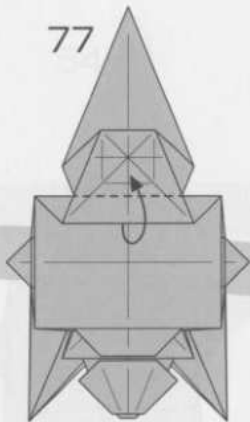
表からみたところ

76



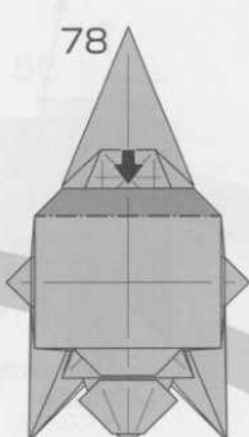
74でつけた折り筋のうち  
上の折り筋をつまみ  
周りを潰すように折る

77



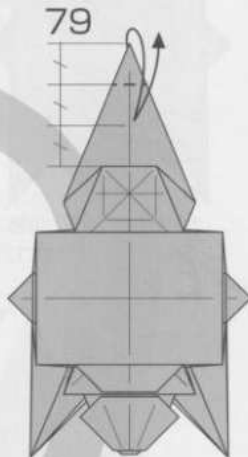
折り上げる

78



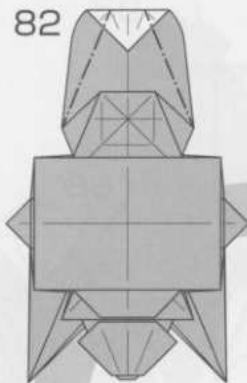
沈め折り  
(closed sink)

79



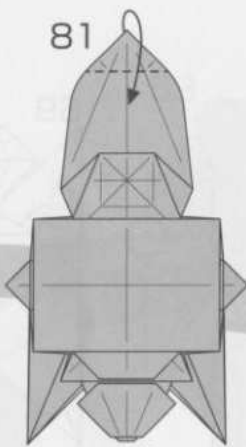
上から三分の一の  
ところで折り筋を  
つける

82



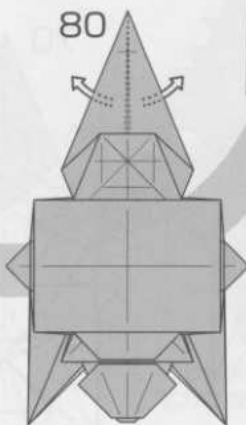
広げたところを  
元に戻す

81



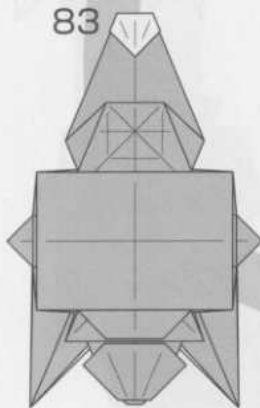
ついている  
折り筋を使い折る

80



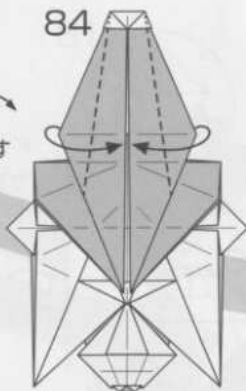
後ろの紙を軽く広げる

83



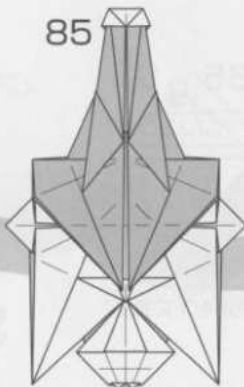
裏返す

84



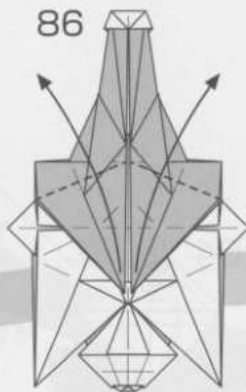
カドを細くするように折る  
折り返した部分は奥まで折る

85

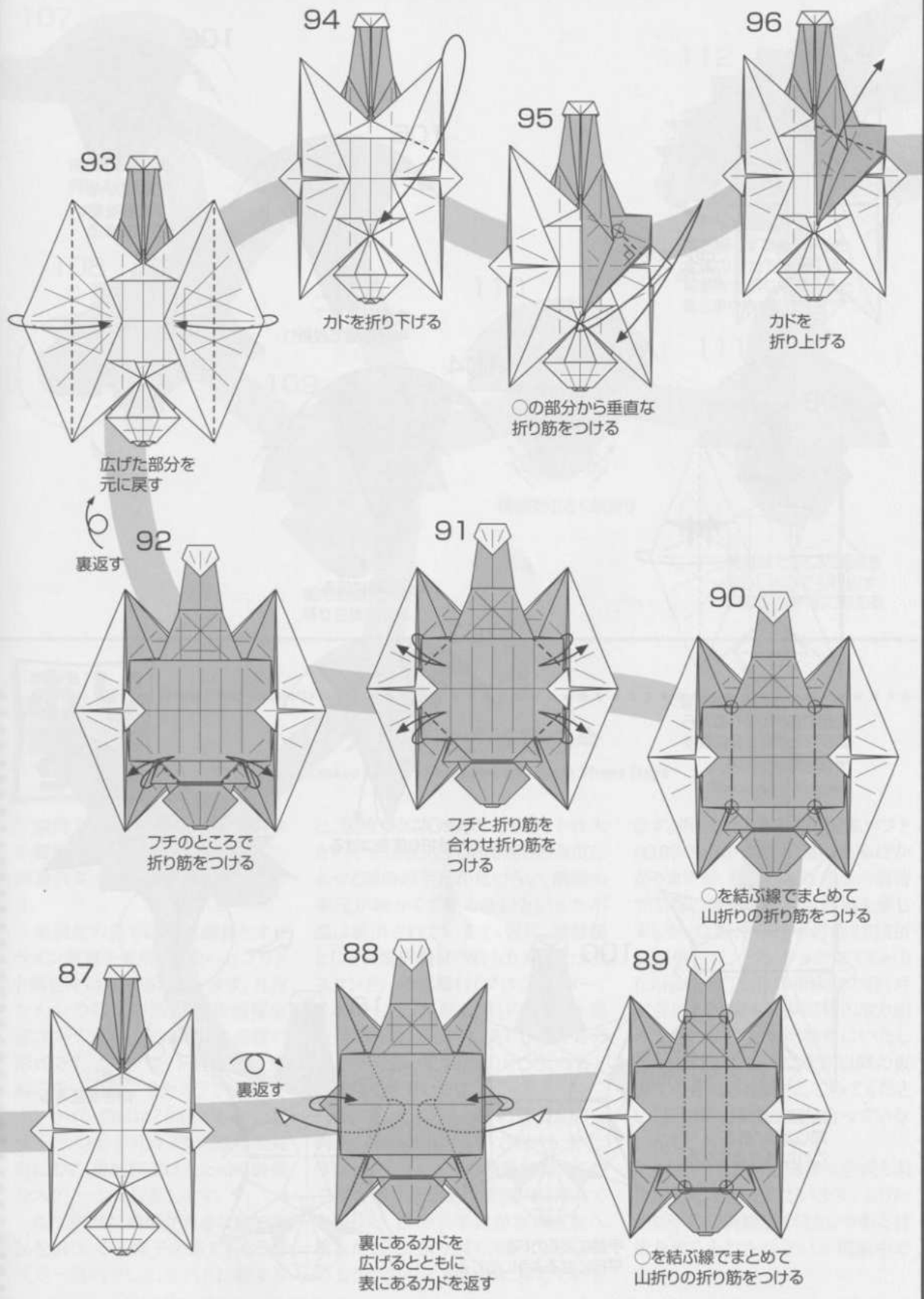


できたところ

86

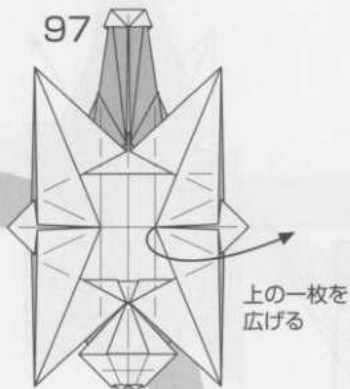


カドを折り上げる



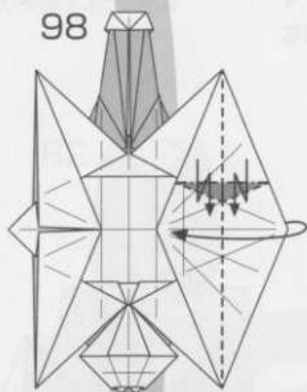


97



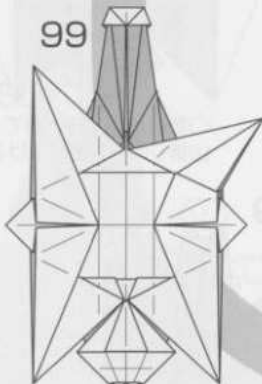
上の一枚を広げる

98



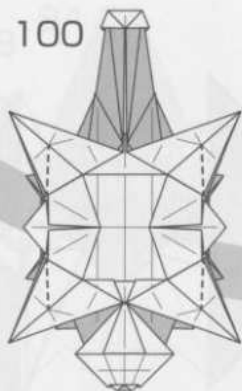
つけた折り筋の山谷を変え  
両側で段折りをしながら  
広げたところを元に戻す  
平らにはならない

99



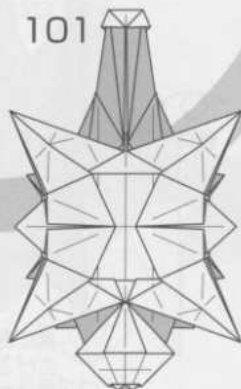
残りの3箇所も  
同じように折る  
これ以降立体になる

100



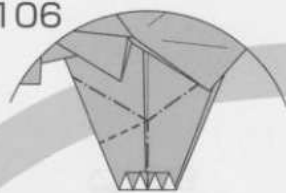
手前にあるカドを  
平行になるようにたてる

101



カドを○に  
合わせ折り筋をつける

106



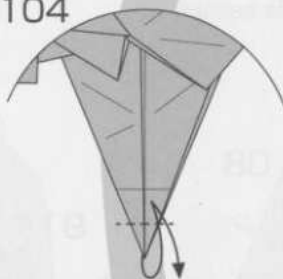
ついている  
折り筋を使い  
立体にする

105



さらに  
半分の幅で段折り

104



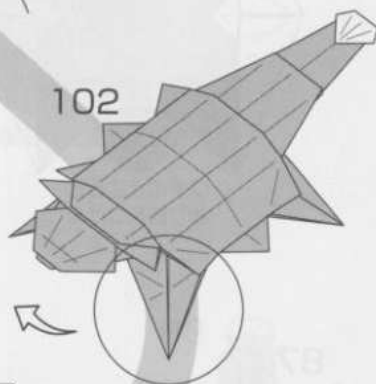
半分の幅に折る

103



カドを○に  
合わせ折り筋をつける

102



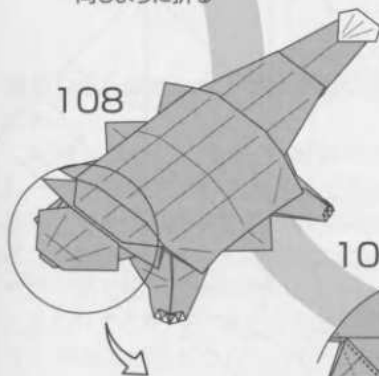
裏返し  
向きを変える

107

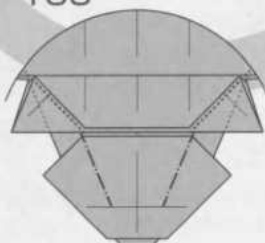


残りの3箇所も  
同じように折る

108



109



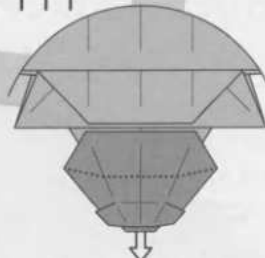
図の位置で  
折り立体にする

110



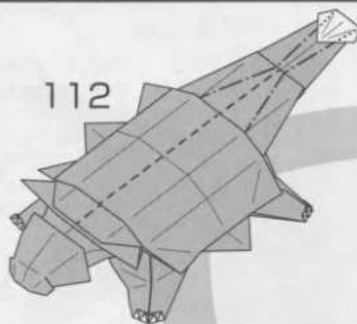
両側で小さく段折り

111



網掛けて示した部分を  
ずらし折りで引き出す  
次の図を参考に整える

112



尾を細くするように折り  
全体のかたちを整える  
背筋を谷折りに変えると  
まとまりやすい

# おり すじ

Orisuzi ("Fold-Creases")

## ハイブリッド形式講習の今

Origami Classes with a Hybrid Meeting Style These Days

中村康佑

Nakamura Kosuke

東海友の会のハイブリッド例会の概要と最近の取り組みについて、運営スタッフの目線から紹介します。

東海友の会では現地講習とオンライン講習を併用させたハイブリッド例会を毎月開催しています。九州友の会や昨年(2023年)の第28回折紙探偵団コンベンションのA教室も同様の形式です。ハイブリッド例会では、講師の手元の様子をカメラで撮影し、オンライン側にはZoom(Web会議サービス)で手元カメラの映像を共有します。現地側ではZoomの映像をスクリーンに投影します。

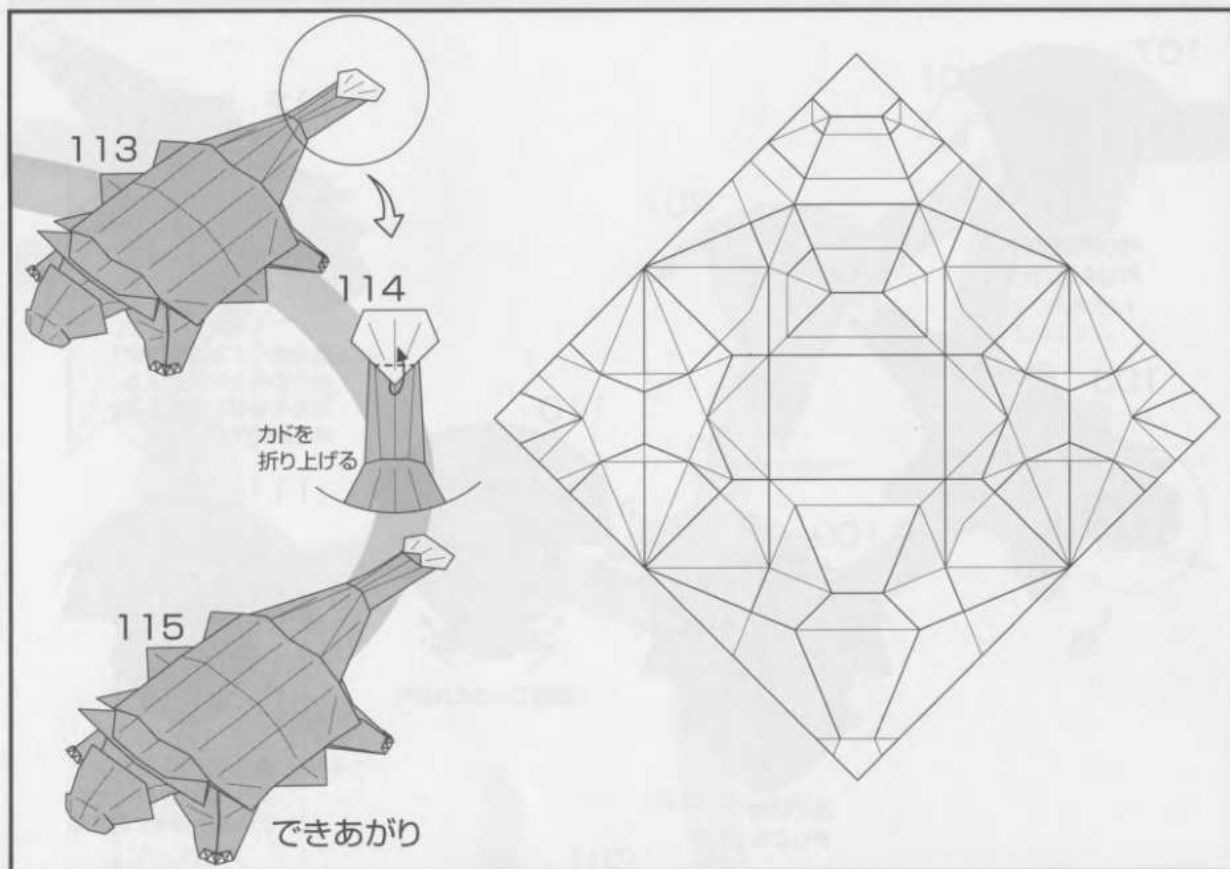
これまででは、講師が大きな紙で作品を折り、その様子を見てもらう形式が一般的でした。これと比較する

と、現地参加者に対するメリットは大きいです。例として、座席からの角度によって講師の手元が見づらい、講師の手元が細かくて見えないといった不満は解消されています。逆に、運営側としては撮影機材(Webカメラ、カメラスタンド)、投影機材(プロジェクター、スクリーン)、配信設備(PC、ネット環境)の準備の手間やコストがかかるデメリットがあります。今のところ、なんとか運営できています。

ここで、今年の3、4月の東海友の会例会の取り組みについて紹介します。今回は、手元カメラの映像に加えて各工程の折り図を配信画面内に添えてみました。講師の手元が次の工程へ移るたびに、折り図もスライドショーのように次の工程の図に移してい

ます。折り図や配信画面編集ソフト(OBS Studio)の準備に手間はかかりますが、特に複雑な作品の講習で工程の理解の補助に効果を感じました。なお、2021年の第26回折紙探偵団コンベンションにてBeth Johnson氏、2022年東海友の会1月例会にて加藤眸氏が同様の取り組みをされており、今回参考にいたしました。気になる方は次回以降の東海友の会には是非参加してみてください(折り図の準備が間に合っていないかもしれませんが…)。

このように折り紙講習の形式も現在進行形で変化しています。よりわかりやすい講習とは何か、今ある技術を取り入れられないか模索中です。



## 折り紙千夜一夜

One Thousand and One Nights of Origami

第6夜

### 紙の定義とパピルス

Papyrus Is Not Paper?

前川 淳 Maekawa Jun

日本折紙学会 評議員代表

日本工業規格の紙の定義は次である。「植物繊維その他の繊維を膠着させて製造したもの。なお、広義には、素材として合成高分子物質を用いて製造した合成紙のほか、繊維状無機材料を配合した紙も含む」。つまり紙とは、繊維を、編むような方法ではなく、膠着させ(くっつけて)まとめたものということである。この定義で興味深いのは、シート状のかたちには触れられていないことで、たしかにパッキング材など、そうでない紙もある。

繊維の膠着というこの定義からは、マスク等で使用されている「不織布(Nonwoven fabric)」は、布より紙に近いと言える。もっとも、日本工業規格では不織布は別に定義さ

れていて、そこでは、一般的な定義のあとに「紙、織物、編物、…を除く」とある。数学の定義のように明快にはいかず、これを手掛かりにして、紙とはなにか、不織布となにかと考えても、混乱するばかりである。たとえば、ペーパーの語源である古代エジプトのパピルスである。あれは一般に紙とはされないものの、不織布の一種と言えると思っていたのだが、日本工業規格的にはそうではない。パピルスに日本工業規格をあてはめようということ自体が冗談じみているが、その定義の中に「繊維が一方向又はランダムに配向しており」という文言があって、パピルスはこの定義から外れるのだ。パピルスは、縦横二方向、二層にパピルス草の繊維を並べて、それを叩いて

圧縮してつくられたものである。不織布の定義に「繊維が一方向又はランダム」の文言があるのは、繊維が縦横に秩序だっている「布」と区別するためだろうが、それによってパピルスは不織布の定義から除外されてしまう。

折り紙をする者にとって、シート状であることが最も重要な紙の特徴で、さらに割れ目にならずに折り目をつけることができれば、まあ、すべて紙である。折ったことはないが、パピルスは丸めて保存されるもので、たぶん折ろうとすると割れる。それは、折るという観点からは、崎陽軒のシウマイ弁当の箱に使われている、そしてかつてはお経を書くのに使われた「経木」に近い。

File-102

## 合谷哲哉

Gotani Tetsuya

○合谷哲哉(ごうたに・てつや)=1974年  
生まれ、大分県出身、フランス在住。折り  
紙教室、展示や講演を通して折り紙を現  
地で広めている。ここ数年は自身の創作  
活動に集中していたが、最近他の作家さ  
んの作品を折り、学ぼうという意欲が湧  
いてきている。代表作に著書『Origamix』  
がある。



### ■折り紙を始めたきっかけや思い出は?

記憶はないのですが、幼稚園がフ  
レーベル学園だったのでそこで折り  
紙始めた可能性はあります。小学生のこ  
ろ、折り紙を折っていると両親に「折り  
紙はやめて絵画や彫刻をやりなさい」  
と言われました。折り紙には創造性が  
なく、単なる模倣だからだ、という理由  
でした。周りが小言を言いたくなるくら  
い折り紙にハマっていたようです。しか  
し周りの子どもたち同様、小学校高学  
年で自然と折り紙はしなくなりました。

### ■どのように折り紙を再開したので すか?

折らなくなってから20年以上がた  
ち、フランスでアコーディオン奏者とし  
て活動するかたわら、小学校で子ども  
たちの面倒を見る仕事をしていまし  
た。そこである日、子どもたちを集めて  
即席で折り紙教室を開いたところ、たい  
へん盛り上がりました。こうして小学  
校で折り紙教室をすることになり、今も  
続いています。伝承作品を教える際、  
山口さんの著書である『日本のおりが  
み事典』にはお世話になりました。

### ■創作のきっかけは?

小学校での折り紙教室で、ある日と  
うとう教える作品がなくなり、自分で創



作せざるを得なくなりました。その時  
たまたまクリスマスシーズンだったの  
で簡単なサンタを創ったのが初めての  
創作です。

### ■複雑系作品の創作の経緯は?

日本から送ってもらった折り紙の本  
の一冊、川畑文昭氏の『恐竜のおりが  
み』でリアルで複雑な折り紙を初めて  
知りました。夢中になって全作品を折  
り、自分なりに分析などしているうちに  
自分でもこんな作品を創ってみたいと  
思いました。初期の作品は『恐竜のお  
りがみ』の中の作品のアレンジが結構  
あります。

### ■その他に影響をうけた本や作家さ んは?

同じく川畑氏の『空想おりがみ』、前  
川淳氏の『本格折り紙』、そして目黒俊  
幸氏のウェブサイトから多くのことを  
学びました。影響というならば折った  
作品、見た作品全てから何らかの影響  
をうけています。ただ昨今の作家さん  
達の技術とセンスがすごすぎて、分析  
して技を盗むのがとても難しいです。

### ■JOASとの関わりは?

川畑さん、前川さん、JOASという順  
序でたどり着きました。すぐに会員と  
なりマガジンが日本から届くのをいつ  
も楽しみにしていました。またコンベン  
ションが開催されていること、それ  
に合わせて折り図集が出版され、折  
り図が募集されていることを知りました。  
それからはコンベンション折り図  
集に自作が載ることが自分の夢になり  
ました。何年か挑戦して初めて自作  
のゾウが載ったときは感無量でした。

### ■創作で大切にしていることは?

技術は研究と実験で地道に身につ  
けるしかありませんが、創作に対する  
姿勢は日本の作家さんに影響をうけ  
ています。特にフランスでお会いした

宮島登さん、萩原元さん、勝田恭平さ  
んと話したことや、拙書に対して布施  
知子さんからいただいた激励などを  
心に留めています。

### ■フランスでの活動について教えて ください。

折り紙が見慣れたもの、子どもの遊  
びという固定観念の強い日本に比べ、  
フランスでは、特に複雑系作品は芸術  
として捉えられることがあります。ただ  
折り紙作品を他の芸術作品と単純に  
見比べられたとき、相当な苦戦を強い  
られます(この折り紙をいくらで買う  
か?と尋ねればすぐわかるでしょう)。  
完成作品の仕上げや質感はもちろん、  
展開図や、基本形に折り畳まれる  
途中の形などの幾何学的面白さ、そし  
て折り図や折り紙教室で伝える折る  
楽しさなど、折り紙の持つ力全てを総  
動員して戦っています。

### ■今後の展望は?

フランス人に折り紙の楽しさを伝え  
る、複雑系折り紙を紹介するという活  
動は今後も続けていきます。それに加  
えて創作仲間を増やしていきたい、そ  
のためにはJOASの活動を広めていく  
ことが大切になると考えています。

今回、折紙探偵団コンベンションに  
招待作家として招かれることを大変  
光栄に感じています。十年以上ぶりの  
帰国となり、夢にみた場所で皆さんに  
会えることを楽しみにしています。





# Rabbit Ear つまみおり Information

## ◆シンポジウム 折紙がつなく芸術・科学・産業

東京大学館知宏教授らの学術シンポジウムがコンベンションに引き続き8月12日に同会場で開催される。3日間を通した折り紙のお祭りをお楽しみください。

場所(東京大学弥生講堂一条ホール)

一般公開、参加無料(事前登録制:300名程度)

主催:学術変革B「折紙がつなく」(2024年度発足)

特別招待者エカテリーナ・ルカシェヴァ氏、前川淳氏、近藤滋氏、宮前義之氏の講演ほか

後援:日本折紙学会

担当者:館知宏(東京大学大学院総合文化研究科)

※専用のページ(コンベンション特設ページからリンク予定)から別途登録を行なってください。

## ◆第29回折紙探偵団コンベンション開催のお知らせ

東京大学農学部弥生講堂を会場にしたコンベンション開催が決定した。昨年と同様にリアル開催と現地1部屋のオンライン配信によるハイブリッド開催となる。また、本年はJOAS評議員でもある、東京大学の館知宏教授らの学術シンポジウムが引き続き同会場で開催されることが決まっており、3日間を通したコラボレーション企画も検討している。

### ●開催概要

日程:2024年8月10日(土)~11日(日)、12日(月、振替休日)コラボレーション企画

募集人数:300人(予定)

参加資格:小学生以上の折り紙愛好家(小学生は保護者の同伴が必要)

参加費:

現地大人 =7,000円

現地学生 =5,000円

オンライン=3,000円

※オンラインパスポートや会員・購読者割引は行いません。

※運営の都合上、オンライン配信は決められた1つの部屋で行われる教室に限定され、すべてのイベントや教室に参加できるわけではありません。

### ●参加申込:6月25日(火)開始

申込方法:現地、オンライン共にオンラインでのチケット販売となります。日本折紙学会のHP内に設置された特設ページで申込と支払いをお願いします。6月25日19時より申込受付を開始し、先着順となります。現地参加締め切りは7月14日(日)ですが、定員に達し次第終

了します。※オンライン参加締め切りは8月2日(金)です。

※去年は、応募多数のためやむを得ず約3日で定員に達してしまいました。余裕をもって早めのお申し込みをお願いします。

申込終了後:申込を受け付けた方には受付完了メールをお送りします。その後、現地参加とオンライン参加の方へ、それぞれ参加概要を示したメールをお送りします。よく読んでご参加ください。

教室受付番号:現地参加の方には例年通り教室受付番号が振られます。

### ●主な内容(予定)

○作家招待:フランスから合谷哲哉氏、

韓国からキム・ジンウ氏の2名の招待が決定。また、

○特別講演:10日の午前中に招待作家2人の講演を行います。オンライン配信も予定しています。

韓国からの招待者 キム・ジンウ氏

1979年生まれ。6歳の頃から折り紙を始める。現在は半導体製造会社に勤めている。韓国折り紙協会の創作委員として活動しており、Origami Proチームのリーダーでもある。展開図折りが好きで、動物と物をテーマに創作をしている。

合谷哲哉氏は39ページのペーパーフォルダーの横顔で紹介しています。

○折り紙教室:50分1コマまたは2コマ分の講習を70~80コマ予定(状況によって変わる場合もあります)。主なプログラムは受付開始日に公開予定です。

○販売:第29回折紙探偵団コンベンション折り図集を販売予定。

○作品展示:招待作家・現地参加者による作品を展示。現地参加者の方のみ見学ができます。一部展示は12日の学術シンポジウムでも展示されます。学術シンポジウムに参加登録した方は12日にご覧いただけます。

※作品展示をご希望の方は特設ページの申し込みフォームから展示を必ず申し込んでください(お一人24cm×24cm×24cmのスペースひとつです)。

○折り紙人気投票:テーマ干支「巳」

○OATC交流会:展示と交流会を予定。

○懇親会:18:00~20:00、参加費=5,000円 事前申し込み制です(定員100人)。締め切り(7月14日)後のキャンセルは不可。

### ●問い合わせ先

メール:convention@origami.jp

※折紙指導員の受験については別途お問い合わせください。

※コンベンション内容は、やむなく変更になる場合があります。ご了承ください。各種申し込み及び詳細はコンベンション特設ページへ:

<https://origami.jp/convention/29th/>

### ◆総会案内

2024年8月9日(金)14:00よりオンラインにて以下の要領で総会を行います。

名称:第25回 日本折紙学会総会

日時:2024年8月9日(金)14:00~

開催方法:Zoomによるオンライン開催

参加資格:2024年6月30日現在の日本

折紙学会会員(国内在住)※  
※購読者ではありませんのでご注意ください。

参加方法:2024年7月中旬に会員宛に封書にてご案内を郵送いたします。

### ◆折り紙講師募集中

コンベンションで折り紙講師を担当してくれる方を募集しています。

○応募条件:年齢・資格は問いませんが、現地参加される方に限ります。

○募集期間:5月25日(土)~6月8日(土)

○応募方法:コンベンション特設ページのフォームからお申し込みください。

○講習作品:作者に許可を得ていれば、自身の創作でなくても可。

○選定について:講師枠よりも多くの方から申込があった場合、実行委員会でジャンルや難易度のバランスを検討の上、やむなく辞退をお願いする場合があります。予めご了承ください。選考結果は、6月22日までにメールにてお知らせします。詳細は、特設ページをご覧ください。

### ◆OATC交換会

○現地交換会参加方法:64×89mmの大きさで(必ず守ってください)、折り紙を使ったカードを作成し、会場でお互いに交換します。テーマはありません。OrigamiATCの担当者に1枚提出いただくと、作品展示場で展示されます。

現地参加されない方は郵送参加が可能

です。詳細はinfo@origami-atc.jpへお問い合わせください。

### ◆創作折り紙人気投票

テーマ 干支:「巳」

○応募作品:未発表の創作作品に限る

・応募は1人1作品です。

・複合は可、切り込みは不可。

・平面・立体作品いずれも可。

・大きさは24×24×24cm以内。

・アニメのキャラクターなどをそのまま模った作品は投票の対象とはなりません。

○応募期間:事前登録が必要。登録手続きを、特設ページに設置するフォームを使い、6月25日~7月31日の間に登録を完了してください。事前登録なしで会場に直接作品をお持ちいただいても参加できません。

○応募資格:参加者のみ。作品は現地参加者が搬入・搬出を行うこと。

○展示方法:事前登録の情報を元に、展示スペースを用意します。10日の13:00までに、会場で指定の場所に展示してください。

○審査方法:11日の15時までに、現地参加者と現地参加の評議員が、各自スマホなどを使いネット上で投票し、当日中に人気投票結果を発表します。結果は本誌及びJOAS公式サイトにも掲載予定。

○表彰について:賞状授与(※トロフィーはありません)

詳細は、特設ページをご覧ください。

### ◆折り図投稿募集中

『第29回折紙探偵団コンベンション折り図集』原稿募集

コンベンション開催決定を受けて、折り図集の投稿募集も開始しました。

○応募作品:創作もしくはアレンジの作品で、未発表の自作折り図に限る。(アレンジの場合は、元の作品名・作者名を明記し、オリジナルの創作者からの許可を得ること)

○投稿締め切り:6月15日

○投稿資格:マガジン購読者、日本折紙学会会員に限らず採用を検討します。

○図の仕様:図はモノクロである必要があります。できれば、Adobe イラストレーター形式を使用(採用の可能性も高まります)。図のレイアウトはおりがみほうずで行うことをご了承ください。折り図の元データとPDFの両方をお送りください。

○掲載発表:本の発行をもって発表とさせていただきます。

○掲載された方への献本

作図数に関わらず折り図集PDF版を進呈いたします。

投稿ページ:

<https://origami.jp/convention/29th/#diagram-book>

### ◆プレゼント企画 SwitchPenを 5名の方に

本号の「ぼく

らは折紙探

偵団」で

紹介された

CRUSHMETRIC社製「SwitchPen」を抽選で5名の方にプレゼントします。以下のURLまたはここに記載のQRコードにて、応募フォームのページへアクセスしてください。名前とメールアドレスを入力したうえで「送信」ボタンを押すことで抽選にエントリーされます。エントリーはマガジン購読者1名につき1回まで、応募締切は6月30日です。

当選者には後日に編集部よりメールでお知らせします。

応募フォームにあるアンケートにもぜひお答えください。

応募フォーム

<https://forms.gle/SGLW4yN5PkQV98X19>



## ◆大地の芸術祭 越後妻有 アートトリエンナーレ2024

布施知子さん「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2024」に出演

新潟県越後妻有地域(十日町市・津南町)の広大な里山を舞台に四半世紀にわたって開催されている芸術祭。9回目となる今年、布施知子さんの作品「おりがみ:みんなで作る津南の森」が展示されます。地域の子供たち約270名と作る「大きな森」をお楽しみください。

【開催期間】2024年7月13日(土)

-11月10日(日) 火・水曜日休

【開館時間】10:00-17:00(7-9月)、

10:00-16:00(10-11月)

※上記は布施さんの作品をご鑑賞いただける日時です。一部作品によって公開日や時間が異なります

【布施さん作品会場】旧大口百貨店(新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡4569)

【入館料】400円もしくは、芸術祭作品のほとんどを鑑賞できる「作品鑑賞パスポート」の提示

【駐車場】あり(会場まで徒歩で約2分)



【公式サイト】<https://www.echigo-tsumari.jp/>

## 新刊 勝田恭平作品集2



勝田恭平 著/山口 真 編/3,850円(税込)/送料 440円/B5判/全180頁/カラー口絵4頁/12作品収録/収録作品はベルシャ猫、狐の嫁入りほか  
6月発売予定! 予約受付開始  
申し込み方法は、通常のおりがみはうす通信販売方法(巻末広告をご覧ください)と同様です。送料と本の代金をお送りください(送付先住所と商品名を明記のこど)。発売後に発送します。

## 各地の折紙探偵団 友の会例会予定

2024年6月のオンライン例会には2024Q1、7月のオンライン例会には2024Q2オンラインパスポートが必要です。日本折紙学会ホームページからお求めください。

### 東京友の会 ※オンライン例会

●6月1日(土)14:00~  
講師:袋井一樹  
作品:ユーステノプテロン  
用紙:24×24cm



袋井一樹 ユーステノプテロン

●7月6日(土)14:00~  
講師:北條高史  
作品:組立式まゆげロボ3号  
用紙:正方形3枚 15cm角を推奨

### 静岡友の会 ※折り紙は各自持参

●6月9日(日)13:30~15:00  
オンライン例会  
講師:高木ひろみ  
作品:ナインパッチと三角ブレード  
●7月14日(日)10:00~15:00  
会場:清水興津生涯学習交流館  
参加費 大人500円、中学生以下200円  
講師:未定  
作品:未定  
○静岡友の会ブログにて随時情報を掲載します。<https://origami.eshizuoka.jp/>

### 東北友の会 ※折り紙は各自持参

●6月23日(日)9:00~15:00  
●7月21日(日)10:00~16:00  
会場:仙台市八木山市民センター  
参加費:300円(会場費)  
内容:自由折り(リクエスト可)  
連絡先:福島邦幸  
k-fuku@mve.biglobe.ne.jp

### 関西友の会 ※オンライン例会はありません

●6月23日(日)13:30~16:50  
会場:大阪市立阿倍野市民学習センター  
第1研修室(大阪メトロ天王寺駅が阿倍野駅 あべのベルタ3階)  
参加費:大人500円、中学生以下300円  
講師:小橋清貴 作品:植輪、古墳  
●7月28日(日)13:30~16:50  
会場:西宮市中央公民館 601・602集会室  
(阪急西宮北口駅 プレラにしのみや6階)  
参加費:大人500円、中学生以下300円  
講師:世浪 健  
作品:羽ばたくランフォリンクス、オクタグラム(15cm2枚複合作品)

### 東海友の会 ※ハイブリッド例会

●6月15日(土)13:00~  
会場:刈谷市総合文化センター アイリス  
参加費:  
500円  
中学生以下  
は200円  
講師1:  
田中幹人  
作品:兜  
講師2:  
村木厚紀  
作品:軽自動車



村木厚紀:軽自動車

●7月20日(土)13:00~  
会場:愛知工業大学 自由ヶ丘キャンパス  
参加費:500円(中学生以下は200円)  
講師:未定  
作品:未定  
○会場周辺に駐車場が少ないので公共交通機関を利用してお越しください。

### 九州友の会 ※ハイブリッド例会

会場:アバンセ & Zoom  
参加費:大人500円、中学生以下100円、パス保持者は200円引き  
●6月23日(日)14:00~16:30  
講師:切通泰子  
作品:カタツムリ(作:布施知子)  
●7月28日(日)14:00~16:30  
講師:未定  
作品:未定  
その他:詳細はこちら  
<http://q-syu.squares.net/blog/cgi>

## ◆吉野一生基金への 寄付報告

第35期5月12日現在、83名の方から合計77,8000円の寄付をいただいております。ご協力ありがとうございます。皆様のお陰で、海外から優秀な若手作家や著名な作家を招くこととJOASの活動ができています。ご協力くださった方々のお名前を、感謝の気持ちを込めて掲載させていただきます。(50音順、敬称略)

1口:石川 淳、猪ノ口洋子、岩佐二郎、永長久登、沖佐々木たまき、小原智美、加賀谷智子、小笹径一、小森近子、齊藤道代、佐久間和子、林 郁雄、藤本幸子、松浦宣子、三浦順子、宮本真理子、村木陽子、森谷登喜男、吉岡岳延、吉田恵子  
2口:安西 豊、稲田 均、小野伴子、気賀沢祐子、北川文子、北橋邦子、久慈暁子、田中正彦、津田真理子、富野泰子、初音みね子  
3口:田中虎晴、豊村高志、奈良崎ひさ子、花岡真由美、福島邦幸、渡部國明、和藤惠美子

5口:赤澤有二、石川広忠、川井千世、川崎亜子、倉田貴、栗林美知子、齊藤智美、篠隆弘、中村淑子、本位田那穂美、山口之彦、山梨明子

10口:萩原知佐子、勝田恭平、神谷哲史、亀井浩平、河村敬之、川村みゆき、切通泰子、久々知茂乃、小松英夫、櫻井明美、笹出晋司、立石浩一、北條高史、前川 淳、前川純二、松浦英子、三浦公亮、宮本直子、水野健、安富隆幸、山崎真弓、世浪 健

15口:川畑文昭  
20口:武井純二、三谷 純  
30口:小野友彰、田中幹人、米倉良子  
40口:木村良寿  
50口:西川誠司、西川直子、山口 真  
50口×2:オ・ギョンヘ

吉野一生基金 韓折紙協会前会長のオ・ギョンヘさんから、吳京浩(Oh, Kyung Ho) 一生基金に寄付をいただきました。

日本折紙学会公式HP  
<https://origami.jp/>

## 折紙探偵団マガジン

2024年5月25日発行 第35巻1号 通巻205号  
発行所/日本折紙学会  
〒113-0001  
東京都文京区白山1-33-8-216  
Phone & Fax / 03-5684-6080  
発行人/前川 淳  
編集人/野口マルシオ  
編集人補佐/山口 真  
編集スタッフ/おりがみはうす  
翻訳/立石浩一  
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

# おりがみはうす商品案内

このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。

日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.  
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



注文予約受付中!

## 勝田恭平折り紙作品集2

勝田恭平 著/山口 真 編 立石浩一 訳/3,850円(税込)/送料 440円/B5判/全180頁/カラー口絵4頁/12作品収録/収録作品=エゾモモンガ2、ベルシャ猫、トラ、ツノメドリ、スズメ、組み換え式ニワトリ2022、小鳥、バシリスク2022、ヒキガエル、狐の嫁入り-花嫁、狐の嫁入り-花婿、狐の嫁入り-お付きの狐-

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内容
勝田恭平折り紙作品集2	勝田恭平 著 3,850円	国内一律 1冊 440円 (梱包込) 2~3冊= 650円 4冊= 1,090円 5~6冊= 1,300円 ※4冊以上の発送は梱包等の都合上2つに分けての発送になります。	B5判/全180頁/12作品収録
北條高史折り紙作品集	北條高史 著 4,400円		B5判/全212頁/11作品収録
萩原 元折り紙作品集	萩原 元 著 3,520円		B5判/全180頁/20作品収録
勝田恭平折り紙作品集	勝田恭平 著 3,520円		B5判/全180頁/13作品収録
神谷哲史折り紙作品集3	神谷哲史 著 4,400円		B5判/全232頁/15作品収録
ユ・テヨン折り紙作品集	ユ・テヨン 著 3,190円		B5判/全180頁/20作品収録
クエンティントロリップ折り紙作品集	クエンティントロリップ 著 3,190円		B5判/全180頁/19作品収録
神谷哲史作品集	神谷哲史 著 4,400円		B5判/全228頁/19作品収録
神谷哲史作品集2	神谷哲史 著 4,400円		B5判/全232頁/16作品収録
折紙図鑑 昆虫II	ロバート・J・ラング 著 3,850円		B5判/全196頁/18作品収録
西川誠司作品集	西川誠司 著 1,760円		B5判/全196頁/32作品収録
面~The Mask~	布施知子 著 1,815円		B5判/全200頁/27作品収録
エリック・ジョワゼール-折り紙のマジシャン-	山口 真 編著 5,280円		B5判/ハードカバー/全144頁/カラー80頁
第28回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.28	日本折紙学会 編 3,080円		B5判/全272頁/40作品を収録
第27回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.27	日本折紙学会 編 2,860円		B5判/全272頁/35作品を収録
第26回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.26	日本折紙学会 編 2,640円	B5判/全272頁/47作品を収録	
第25回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.25	日本折紙学会 編 2,750円	B5判/全304頁/57作品を収録	
第24回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.24	1,375円	B5判/全304頁/61作品を収録	
第23回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.23	1,375円	B5判/全304頁/64作品を収録	
第22回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.22	1,375円	B5判/全304頁/61作品を収録	
第21回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.21	1,265円	B5判/全288頁/57作品を収録	
第20回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.20	1,265円	B5判/全288頁/61作品を収録	
第19回折紙探偵団コンベンション折り図集vol.19	1,265円	B5判/全288頁/53作品を収録	

半額セール実施中

半額セール実施中

商品名	価格(税込)	送料
株式会社-トーヨー 単色おりがみ色見本帳61色	385円	140円

※2冊、2セット以上の送料はお問い合わせください

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

# おりがみはうす オンラインショップ

<https://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を

25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く/発送は週1回木曜日

詳しくは  
検索サイトで

おりがみはうす

検索

商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※PayPalによるお支払いも可能です。  
詳細は公式HP <https://www.origamihouse.jp/>まで  
※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。  
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。  
※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。  
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。  
※書籍と紙はそれぞれ別発送となります。  
※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。

## GALLERY ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216  
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080  
E-mail : info@origamihouse.jp  
月~金 12時~15時 土・日・祝 10時~18時



**About - Origami Tanteidan Digest**

The Tanteidan Digest has the objective to share the articles on Origami Tanteidan magazine and provide an English summary of most (but not all) articles. The numbers indicated as "Page xx" refer to the page numbers of the original articles in the magazine.

While not everything will be translated, we hope it will give you an idea about content of the article. Depending on the context, a "Translator's Note" will be provided for clarity or terms that might not translate easily either because of the language or technical nature.

We hope you will enjoy. Let us know if there is anything we can do to improve or any further

comments. Please contact our editorial department at: [info@origamihouse.jp](mailto:info@origamihouse.jp)

**Table of contents**

(Page 7) Origami and Its Neighbors	1
(Page 14) Close-up	1
(Page 16) Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN	3
(Page 17) Makoto or Not? Memoirs	4
(Page 18) From the Bookshelves of the JOAS Library	5
(Page 26) Crease Pattern Challenge	7
(Page 37) Orisuzi ("Fold Creases")	8
(Page 38) Origami-Zanmai (This Origami and That)	8
(Page 39) Paper Folders on File	8
(Page 40) Rabbit Ear Information	10

Translated by Marcio Noguchi

**(Page 7) Origami and Its Neighbors  
 #124 – Spring Days with Sunlight  
 By Tomoko Fuse**

I fold origami with all my passion daily. I will be participating in the Echigo-Tsumari Art Triennale, which opens on July 13th, and the Northern Alps International Art Festival, which opens on September 13th. After that, exhibitions are scheduled for October and November. It's an unprecedented experience for me to have so many overlaps. In my installation work, I create several large models, so even though it's a creative activity, as I said at the beginning, it's more of a physical labor that requires "all my strength" than using my [creative] brain. I'm also getting a lot of help from my origami friends where I can. This power is great and allows me to try new things and take on adventures that you would have given up if alone. Thank you [to my friends].

The venue for "Daichi" is a former store in Tsunan Town, Niigata Prefecture, an area with heavy snowfall adjacent to Nagano Prefecture. With the cooperation of all local elementary and junior high schools, the title is "Creating Tsunan Forests Together." The model is a cone-shaped spiral tower. Preparations are in full swing. Although I am busy, I look forward to making it with my children.

The "Northern Alps International Art Festival" will create a Paper Garden using Tyvek paper provided by Asahi DuPont Flashspun Products Co. I wasted a lot of time and paper trying to find out the properties of Tyvek paper and find a model that would suit it, but I couldn't help it. The venue is the large tatami-floored

auditorium of Kizaki Summer University on the shore of Lake Kizaki. The area was more than three times what I had expected, so I brought one of the models I had planned with me and set it aside, since it didn't look good at all. With the change to a new model and I am now folding it daily.

If I look outside, spring is in full bloom. Cherry blossoms, plums, peaches, snow willows, and various types of daffodils brightly decorate the garden. This year, perhaps because we don't have the invasive loud-singing bird called Gabi-cho [Chinese hwamei], it's been a calm spring, with the sound of the blue-and-white flycatcher and the Japanese Ashy minivet flying in waves while chirping. The other day, I heard a black kite hawk, which is one size smaller than a black kite, croaking loudly, and when I looked up, I saw a bird of prey that was about twice its size and appeared to be a black-eared hawk, flying leisurely in circles, and making a noise. I heard from a bird lover carrying a camera, who was walking by, that black-tailed hawks fly on several fixed routes, and that they fly to the mountain in front of my house around noon. On a gloomy spring day, I told my partner that I had seen something interesting.

**(Page 14) Close-up  
 A Prologue: Deciphering Kodama Collection  
 By Eiko Matsuura**

Eiko Matsuura continues to conduct research on the theme of origami as social and adult education. History is not my specialty, and I'm not good at it (!), but I can'

t do research unless I understand history, so I've been researching the sTachi of origami since the Meiji era.

#### ◆ About "Kodama Collection"?

Kazuo Kodama was a famous origami collector who lived in Nagasaki and purchased with his own money the original "Secret Thousand Crane Origata" (now owned by Makoto Yamaguchi) and "Origata Handbook Chushingura" (owned by the late Masao Okamura). He was a rare person who had a collection, which is now "Kodama Collection".

Unfortunately, I have never met Kodama in person, but it seems that he was close to Okamura. In issue 10 of the Origami Tanteidan Newspaper published in October 1991, it was reported that Kodama passed away in March of the same year at the age of 81. A few years later, Okamura and Yamaguchi went to Nagasaki and, with the permission of the bereaved families, packed as much of the collection as they could into more than a dozen Yamato Transport boxes (40 x 40 x 60 cm) and took them. (\*)

I have known for a quarter of a century that it was packed with extremely valuable materials. The materials remained sealed in cardboard at Yamaguchi's home in Shizuoka for about 30 years. The ban has finally been lifted (Photo 1).

(\*) The travel expenses at this time were at their own expense, and compensation was also paid to the bereaved families.

#### ◆ Contents of the Collection

There were 16 cardboard boxes which was brought in. Looking at the collection of the JOAS Origami Library, some of the Kodama materials already exists, and some of the boxes may have been opened long ago. Therefore, I don't know the exact total number of materials taken out of the Kodama residence. But I did a quick count and found that there were 205 origami books, including booklets from Toyoaki Kawai's study group and Group '67. There are four types of newsletters, and more than 100 handmade 40 x 60 cm and 4 to 5 cm thick scrapbooks handmade by Kodama. Also, a large paper doll calendar by Toshie Takahama and Dokuo-tei Nakano's correspondence education set and Mitsuhiro Uchiyama's folded paper set, which were grouped together with the date of arrival written on the envelope (Photo 2).

There are more than 200 origami books, some of which are date pre-war, but most of which are from the Showa period, mainly from the 1960s and 1970s. 94 of them are duplicates of books already in the JOAS library. However, more than 100 rare books were new items.

All covers of the book have been removed, and

the back cover was pasted on the front 3 section, and despite of the creases, it has been preserved in good condition with no sun damage or tears. Kodama was also in contact with many origami artists, purchasing new origami books as soon as they came out and exchanging letters with the authors. Such correspondences were bound on the inside cover of a book or scrapbook (Photo 3). Okamura was reluctant to release the contents because "many people were still alive" [at the time], and so the correspondences were put on hold for 30 years. In addition to letters, there were also clippings of newspaper advertisements for books (Photo 4). For this reason, even if the books were already in the Origami Library, I would like to keep the Kodama collection books (but, because of lack of bookshelf space, they have been rejected so far).

#### ◆ Handmade scrapbook

Dealing with scrapbooks is much more difficult than books. It's quite thick and there were over 100 volumes. Also, the cellophane tape and glue had deteriorated, so, when touched, it would fall off. If you look closely, you can see that the book is completely handmade, with the backing paper of old calendar [paper] cut to the same size and bound with a thread.

There are various items that were scrapped. There were serialized magazine articles by the artist, works by the artist himself. Kodama himself had pasted folded models of other artists. There were also detailed notes written on it. Also, there was research on "Izumiori" by Mitsue Aoki, as well as materials on creators such as Manyo Ito and Tazuna Abe, for whom little information is currently available. A table of contents has been created for all these files, and it included the date of models and date of acquisitions of the items, which I am very grateful for.

In addition, all items were neatly categorized. For example, the "Origami Lecture Record" is written by Toshio Chino and Dokuo-tei Nakano, and the latter has up to volume 10. The file entitled "Folded Containers" is wegenerously pasted with tatami paper folded by Mitsuhiro Uchiyama himself (Photos 6 to 8). There were also unbound mounts with content pasted on them, and among them were Okamura's original models, hand-drawn diagrams, and postcards pasted (Photo 5). If Kodama had continued this work a little longer, Okamura's scrapbook would no doubt have been included.

In this way, Kodama's scrapbook is a primary source filled with valuable information from the time when Japanese origami was mainly constituted by traditional models, to the early to middle period when artists emerged and the development of modern origami. However, even if I reorganized it without books, it still

ended up being 15 smaller cardboard boxes. Next year, the space used as a warehouse will no longer be available. So, there are concerns about where to store it, and at one point there was a plan to dispose of it. But the idea of storing it at my parents' house (Ishikawa Prefecture) averted the worst situation. If possible, it would have been desirable to digitize it (photograph all pages) before storing it, but since it is not possible to leave it in the JOAS Hall until then, it will be sent as soon as the inventory is created.

#### ◆ Toward the prologue

In the 19th issue of the Origami Tanteidan Newspaper published in April 1993, Okamura mourned the third anniversary of Kodama's death and mentioned the documents, saying, "These vast records and many collected items will be useful for general research. I would like people to understand the reality that there is still no institution that can preserve and make them publicly available." Thirty-one years later, the situation has not changed. It's only been about five years since I started researching modern and contemporary studies, and I'm already entering the middle-aged generation, so I'm at an age where I doubt whether Okamura's wish will come true. Therefore, training the next generation of researchers is an urgent issue.

The reason why I included "Prologue" in the title of this article is because I want to use the compilation of Kodama materials as a starting point for research on the history of modern origami (Meiji-Showa period), an area where there are very few researchers. However, we have not even reached our starting point. The organization of materials at the JOAS Library, not just Kodama materials, tends to get delayed.

Currently, Yasuharu Ouchi oversees inputting data into the database simply because he lives relatively close to JOAS Hall and is easily accessible for him. Old books often don't have enough information, and sometimes the information isn't even available on the internet, so it takes time to check. It might be interesting if you're interested in history and books. But if you're not, it's just a hassle. In this way, historical research using documents consumes a huge amount of time just checking the facts.

The number of documents dealing with such situation is rapidly increasing, but the analysis of the Kodama collection has provided evidence for stories that we had only heard through word of mouth until now. I hope that historical research will make considerable progress.

A few volunteers have already agreed to help, but progress has been slow because I haven't yet prepared the tasks that could be allocated to them. And because everyone is busy and it's difficult to get together.

First, we would like to proceed with a small number of small number of people, but if anyone reading this article would like to participate in the research and organization, please contact the editorial department.

#### List of Figures

Page 14 bottom left: Photo 1: Kodama collection spread out in JOAS Hall

Page 14 center: Photo 2: Correspondence education set by Nakano Dokotei

Page 14 right: Photo 3: Postcard included in Rie Takahama's "World Origami Masterpiece Collection"; Photo 4: Newspaper clippings are also pasted at the end of the book.

Page 15 bottom left: Photo 5: A scrapbook page that appears to be before it was bound. Completed models of Lord Ebisu and Lord Daikoku by Masao Okamura, folded drawings, and letters are pasted.

Page 15 center top: Photo 6: The cover also uses cardboard from the package.

Page 15 bottom, center and right: Photos 7 and 8: Mitsuhiro Uchiyama's tatami paper scrapbook. Uchiyama's own model is pasted directly on it.

---

## (Page 16) Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

### A Wondrous Ballpoint Pen, SwitchPen, with Folding Patterns appearing in an Instant - Interview on the Development Story Article by Jun Mitami

Jun Mitami = Born in Shizuoka in 1975. Professor, Graduate School of Systems Information, University of Tsukuba. He is engaged in research on computer graphics. He is interested in the geometry of origami and is conducting research on origami using computers.

Are you familiar with CRUSHMETRIC's SwitchPen product (Figure 1)? At first glance, it looks like an ordinary ballpoint pen, but when you press the lever on the rear end, the pen tip comes out and at the same time, a geometric uneven pattern known as a diamond cut pattern or Yoshimura pattern appears on the surface. Then, when you release the lever again, the pen tip will be retracted, and the surface will return to its original smooth surface. This change occurs in an instant, so anyone who sees it for the first time will be surprised.

I received this SwitchPen as a gift at a convention held in Australia in 2022, and I was impressed by how interesting its movements were.

This time, we interviewed Frederick Cheung of CRUSHMETRIC (a Hong Kong-based company that



develops and sells the Switch Pen) about this attractive product.

(Mitani) -Please tell us how you developed such an interesting product?

(Cheung) It all started in 2018, when the current president of CRUSHMETRIC became interested in sculptor and artist Noah Deledda's empty can art (art that creates geometric crease patterns on the surface of plain empty cans with his fingers). He came up with the idea of creating a product with a unique appearance like Noah Deledda's work, and after a lot of trial and error, we finally created the product we have today. Due to the Covid pandemic, I was unable to meet Noah Deledda in person, and after two years of email exchanges and more than 200 prototypes at a factory in China, the project was finally completed.

#### **-What kind of person is artist Noah Deledda?**

An artist currently around 50 years old, he began creating works that create geometric uneven patterns on the surfaces of beverage cans in the 1990s. He used to live in Miami, but he moved to Hong Kong about six months ago, and we are currently working together on developing new products. He seems to be very interested in origami, but he doesn't seem to make origami models as art. He has a very friendly personality and hopes to be able to interact with Japanese origami artists.

#### **-How do you feel about sales after the product launch?**

Until now, we have only sold online, but word of mouth has spread through social media, and we have sold about 20,000 unites in the past year.

The main markets for our products are the United States and China, but we also have a fair number of sales in Japan. When Mitani introduced it on Twitter (currently known as X), the video received over 800,000 views and received a huge response. Thank you very much. Based on our past results, we are currently aiming to sell at physical stores.

#### **-Following the pen, you also commercialized a chair?**

Yes. The product is called AutoHedron Chair. It has a simple silver cylindrical appearance, but when you sit on it, the seat lowers slightly, and unevenness appears on the surface (Figure 2). When you stand up, it returns to its original shape. Furthermore, we are currently developing a tumbler, which we plan to release soon.

#### **-What is the mechanism behind the instantaneous appearance of patterns?**

In the case of a pen, the surface is simply covered

with a silver cylindrical sheet, so when you remove it, you can see the structure inside. Inside is a plastic body with an uneven pattern, and when a silver sheet is pressed against it, the pattern appears. The plastic body has a slit in it, and when you lower the lever, both sides of the slit slide, making the pen body a little shorter.

#### **-Are there any plans to develop products with different uneven patterns?**

Yes. of course. We would like to create a pattern like Noah Deledda's work, which is different from previous product patterns. However, the molds required for manufacturing are extremely expensive, and it seems difficult to do so right now.

#### **-Thank you for teaching me many things.**

Thank you very much. I would be happy if I could have the opportunity to interact with people in the origami community in the future.

That concludes the interview with Cheung. I'm looking forward to seeing what new products will be released in the future.

#### List of Figures

Figure 1: SwitchPen. A crease pattern appears on the surface by raising and lowering the lever.

Figure 2: AutoHedron Chair

---

## **(Page 17) Makoto or Not? Memoirs by Makoto Yamaguchi**

### **Part 6 – Knowledge and Wrong Speculation**

Ichiro Kinoshita was particularly proud of his work, saying, "This is a piece of work that was folded without cutting." One of the pieces was a fireplace that was created by folding a pattern of stacked bricks using a tessellation technique, which he called "lenga-ori" "brick folding." (This was long before the creation of Shuzo Fujimoto's hydrangea folding). In its early days, Origami House held monthly solo exhibitions by people known as origami artists. The first solo exhibition in which Kinoshita's fireplaces were exhibited was held in 1989.

"Brick folding" later became a source of conflict with the late Yoshihide Momodani over who came up with it first. After this solo exhibition, I called the process of folding a single piece without making any incisions "Fusetsu Ichimori" (no cuts, single sheet of paper). However, I later learned from Hideo Komatsu that the expression "one piece of uncut square folding" had already been seen in Kunihiko Kasahara's "Origami 3: Super Difficult: A Collection of Works for Enthusiasts"



(1976). Also, in "Pure Origami" (1979) by Okimasa Uchiyama, which I talked about in the previous column, the phrase "one piece of uncut square" appears, although it is not "one piece of uncut square folded".

The other day, in an interview with a famous origami artist, he said, "FukiSetsu" (no cut) square single sheet folding'. He never uses scissors and only folds one square sheet; a rule that has been followed since the Edo period." [Period of Japanese history from 1600 to 1868]. This is a sTachment that could change the history of origami and even create a new historical perspective.

There is no evidence that this is a "rule that has been in place since the Edo period." Of course, there were models that were folded from square pieces without cutting them during the Edo period, but scissors were used for many of them. However, it was the origami artists who emerged after the war who laid the foundation for modern origami and established the restriction of folding without cutting a single square sheet, made it into a style of origami, and gave it a name.

What we don't know could be dangerous. Careless sTachments made by famous authors, including myself, may give incorrect information to young origami enthusiasts and creators who do not know the history, as well as to students who intend to cover the history of origami in their graduation thesis. Now may be the time to properly research and share the history of postwar origami.

#### List of Figures

Bottom Left: The brick fireplace pictured in the back of the postcard for the solo exhibition

## (Page 18) From the Bookshelves of the JOAS Library

### Book #95: "Compendium of Origami" by Kawai Toyoaki

#### Article by Kango Kariyazono

Kango Kariyazono = Born in 1993, in Kagoshima Prefecture. The other day in April, I went on a trip to the Shimokita Peninsula with my origami friends. The gourmet food, scenic spots, and refreshing hot springs made it a trip that boosted my origami motivation.

#### [Introduction]

This time I would like to present Toyoaki Kawai's "Origami Zensho" (Shufu to Seikatsusha, released October 30, 1970, Figure 1). It is a thick and sturdy folded book of over 200 pages.

The author, Kawai, was introduced in this corner of Origami Tanteidan Magazine No. 116 by Seiji Nishikawa,

so please refer to it. As Nishikawa has said, there are too many famous origami artists whose books have inspired the creation of origami. Although I am not in a position to rank among them and I am from a different generation, this book written by Kawai can actually be called a bible for me as well.

I first found this book before I got into origami (it was among bundle of books that was given to me by a friend of my parents), but later it became one of the books I read the most. By the way, there is also a book called "Mother and Child Origami" (Shufu to Seikatsusha, released on September 20, 1986) with almost the same content, with the only difference being the title and the cover being hard instead of soft. The one I had was "Mother and Child Origami," so I'm more familiar with that edition. Later, when I learned of its other name, "Origami Zensho," it made a lot of sense to me because I knew its contents. This is because this book contains a huge range of models, and through them you can learn how to create and deal with origami, making it truly a complete book on origami.

#### [A wide range of recorded models and an invitation to create]

First, let's look at the cover (Figure 1). It would be no exaggeration to say that the book's title is surrounded by animals made of various papers in various colors, and that this book's charm is all about it. I'm excited to see how much folding methods, techniques, and production processes I can learn from this book just by looking at the cover. Starting with a horse wearing a color-change saddle with a neat design, a cow with interesting four-legged legs, a tiger with hand-torn paper pasted on to create a striped pattern, and a straight body with only the ears expressed. A rabbit with a soft texture, a sheep and a comical monkey with interesting facial expressions, a boar, chicken, mouse, and dog whose characteristics are captured and deformed at different resolutions, and a snake with a tiered fold to create a sense of dynamism. And the dragon... reminded me of the infinite possibilities of origami. When there are animals created using so many different techniques and concepts, it takes a while to realize that they all have one thing in common: the zodiac. I like that they are not arranged in the order of the zodiac signs. It's a design that makes you think that there are animals lined up and look at them once, then realize, "Oh, they're zodiac signs," and want to look at them a second time.

The color frontispiece presents traditional origami and Kawai's original origami, following the structure of the book. On the traditional origami page, "Takarabune" [Treasure Ship] and Renzuru [connected cranes] are listed side by side, but it also introduces "Takarabune"

both as traditional origami and as an inside-out work, and introduces the maniac genre of Renzuru. You will be amazed at the range of works included in this book. On the other hand, Kawai's original origami is photographed in such a way that the beautiful background and texture of the paper can be seen. The instruction diagrams use not only fold diagrams but also a lot of photographs to explain the process, and even though in black and white they are really easy to understand.

In instruction diagram drawing, there is often a chapter called "Basic Folding" at the beginning, and the structure is often used to quote that chapter and start folding from the continuation of the basic folding. The basic shapes [bases] are called Basic A to J, but Basic A is the basic form of a crane, and Basic C to E are the basic forms of iris... all of them are basic forms that you may recognize. However, I like that this book does not call it the "OO Base." I feel the author's message: "This base is not the basic form of some work created by someone else. When you create a model using this base, this basic form becomes the base of your work." (\* It's my imagination). It is also a must-see that Basic A, which is the bird base, includes a folding diagram that starts from a rare book shape rather than the diamond shape (Figure 2). In order to call it "Origami Complete Book," I even wonder if they intentionally included methods of folding that are not well known.

Among Kawai's creative works that are explained using process diagrams, my favorites are his animal works (Figure 3), which are made from basic shapes such as right-angled isosceles triangles.

It's interesting to create the front and back halves of an animal using the same basic shape (Figure 4), but you can also learn how to express it and choose the paper that best suits your work. The African elephant's legs are thick and three-dimensional, and the wrinkles that form when they are three-dimensional are used to express the claws. The rhino's armor-like skin is expressed using the raised creases and edges of the folded paper. The hippopotamus is depicted by unfolding a closed piece of paper to evoke smooth, glossy skin. The likeness of a water buffalo's face and curled horns also make the work look eccentric. However, these expressions are obtained by observing examples and actual animals, and this book intentionally does not clearly show the process. In this way, the reader is invited to take the first step in creative activities.

In addition, there are mountain porcupine and snails that are full of notches, realistic flower works that start from shapes other than squares, insect works such as beetles that are folded in single pieces and stag beetles and spiders that are folded in combination and

works that incorporate masks. At the end of the book, there are also origami toys (paper crafts, paper banger, paper airplanes, etc.), so you can see how this book is a complete origami book.

### [How to approach origami]

I have introduced this book with a focus on the works included, but this is not the only reason why this book is a complete origami book. The section "Before you start origami" covers everything from how to choose paper and tools, how to fold and cut paper, and how to line paper, and the history of origami is also presented at the end of the book.

While this book is rich in content, the book also starts at the beginning, "Origami is all about the individuality of the people who fold it, and not everyone can make it into the same shape." Although this book is also a folded illustration book, he says, "It is not always possible to make it in the same form," but he goes on to say, "To put it in an extreme, it is fine," and "When I am satisfied with myself, it is a work of art." "That's it," he affirms. Rather than whether someone else recognizes your model, you must first be recognized for your work. This can be said to be a phrase that resonates even in today's world where evaluations from others are easily visualized and quantified through social networking sites.

Kawai also expressed the joy of origami as follows:

"The greatest joy of origami is bringing out the infinite possibilities of a single piece of paper."

This is a word that I would like to widely convey to those who create. Once you learn a little creative origami, you may feel as if you are in control of the paper and are exploring new possibilities in origami, but that is not actually the case. The infinite possibilities of paper are originally inherent in paper, and origami is something that can be brought out and enjoyed. These words are important to me even now, although it has been a long time since I started making creative origami. Moreover, as the phrase "the greatest fun" suggests, there are other ways to enjoy origami as well. I think these are simple words that are true to form.

Although it was released 50 years ago, "Origami Zensho" provides information on how to approach origami that is still relevant today. I hope you get your hands on a copy.

### List of Figures

Page 19 Bottom Left Top: Figure 1 - Cover; Left Bottom: Figure 2 - Basic folding (folding diagram of the bird base based on a rare [unusual] book-shaped first steps)

Page 19 Bottom Center: Figure 3 - Animal models

Page 19 Bottom Right: Figure 4 - Basic "J" used in

### **Shibaraku: Comments by the Original Creator [Takashi Hojyo]**

Shinsuke Kozonoi, a first-year high school student from the Origami Tanteidan Tokai Tomo-no-kai Local Area Group, folded the "Shibaraku" and received some comments from the perspective of the original creator. "I was surprised by the extremely high quality of the workmanship, which clearly shows that he has acquired solid basic skills. However, I hope that he will not be satisfied with this and aim to step up even further" (Takashi Hojyo). Please see the comments attached to each photo.

#### **Top-Right:**

① The part of the long sword indicated by the green arrow does not necessarily have to be "neatly brought together to the point where the long sword actually connects". What you can do will change depending on the size and thickness of the paper, so be flexible.

② It is best to turn the sides of the thighs (the part indicated by the red arrow) further to the back.

③ The area around the fan on your right hand is thick and overlapping with paper, so it tends to look like a "fan growing vertically from the palm." You can make it look cool by bending the fan more toward the thumb to make it look like it is held by the hand.

#### **Top-Left:**

Overall, the work was done faithfully to the folding diagram. Even though the paper is smaller than the author's examples, the careful work has gone into every detail!

#### **Bottom-Right:**

By adjusting the thickness of the paper, we were able to arrange the many parts on the back in a well-balanced manner. If you look at the temporary bronze statue of Sensoji Temple, it will be easier to understand the meaning of each part. Furthermore, you may want to go beyond that and try to find a cool way to organize and finish this origami work.

#### **Bottom-Left:**

It is a good idea to adjust the long sword so that it appears to have a smooth curve even when viewed from the side. In areas where there are thick layers, it is easier to control the shape by adding glue between each layer. Be careful with the amount of glue so that it doesn't overflow when you press it down.

---

### **(Page 26) Crease Pattern Challenge Challenge 151: Grumman F6F Hellcat By Kazuhide Minamijima**

**Created: 2018/03**

**Paper Size: 35x35cm**

**Width: 19cm**

Subject: Grumman F6F Hellcat was a carrier-based fighter developed by the American Grumman Corporation and was a strong rival of the Zero Fighter. F6F is her real name, and Hellcat is her nickname.

Structure: I think this is the first shape that comes to mind when you try to fold this type of airplane. While it has a classic structure, there is little room for innovation in the point distribution, and the structure is rather inflexible.

This is something to keep in mind when folding an airplane with a similar structure, as the tail area tends to lack volume and result in a short fuselage. This time, I solved the problem by using irregular angles to increase the paper efficiency. As I will explain later, it seems to be relatively compatible with mid-wing aircraft.

Folding: It has a simple box pleating structure, but there are some irregular angles. Although it is based on the line of the integer ratio angle system, there are some parts where the standard is ambiguous, so please try folding it while adjusting.

Finishing Tip: Use hard, sturdy paper with the same color on both sides. Fold the ventral side diagonally and cover the tail end to gather it. Fold the three propellers diagonally in the same direction, checking the balance so that they are evenly spaced in all three directions. For continuous three-dimensional curved surfaces of the fuselage or windshield (window), consider carefully in advance by some trial folding.

When you want to make something look cool, it's important to be aware of what you want to look cool, as well as technique. If you are willing to carefully research the aircraft you are using as a subject, and are willing to put in the effort, it would be more efficient to observe many other types of aircraft. The quickest way to understand its characteristics is to find out how it differs from the others of the same species.

Also, although it is easy to overlook, the silhouette of an airplane seen from the front is very important. The F6F is a low-wing aircraft with the main wings located low on the fuselage, but it can be said to be a slightly mid-wing aircraft (cf. low-wing Zero fighter, mid-wing F4F Wildcat, high-wing aircraft, etc.) It has been adjusted so that it will come out at the appropriate height if you fold it according to the crease pattern, but please be careful as the main wing will fold upwards from the middle, creating a dihedral angle.



---

**(Page 37) Orisuzi (“Fold Creases”)  
Origami Classes with a Hybrid Meeting Style  
These Days  
By Kosuke Nakamura**

We would like to provide an overview of Tokai Tomo-no-kai [local area group] hybrid regular meeting and recent initiatives from the perspective of the management staff.

The Tokai Tomo-no-kai holds monthly hybrid meetings that combine on-site training and online training. Classroom A at the Kyushu Tomo-no-kai local area group and last year’s 28th Origami Tanteidan Convention had a similar format. In hybrid regular meetings, the lecturer will be captured by a camera, and the video will be shared online via Zoom (web conferencing service). And on site, the Zoom video will be projected onto a screen.

Up until now, the common format was for the instructor to fold a piece of model using a large piece of paper and have students look at how it was made. Compared to that, the benefits for local participants are significant. For example, complaints such as the instructor’s hands being difficult to see due to the location of the seat, and the instructor’s hands being too small to see have been resolved. On the other hand, the disadvantage for the operator is that it takes time and money to prepare the equipment (web camera, camera stand), projection equipment (projector, screen), and distribution equipment (PC, internet network). So far, we’ve been able to manage it.

Here, I would like to present the efforts of Tokai Tomo-no-kai regular meeting in March and April of this year. This time, in addition to the footage from my handheld camera, I included folding diagrams for each process in the distribution screen. Each time the instructor moves on to the next process, the folding diagram will also be moved to the next step, like a slide show. Although it takes time to prepare the folding diagrams and the distribution screen editing software (OBS Studio), I felt that it was effective in helping people understand the process, especially for classes of complex models. In addition, similar efforts were made by Beth Johnson at the 26th Origami Tanteidan Convention in 2021 and by Kato Hitomi at the Tokai Tomo-no-kai January meeting in 2022, which we used as reference. If you are interested, please come to the next Tokai Tomo-no-kai meeting (although we may not be able to prepare the folding diagram in time...).

In this way, the format of origami classes is currently changing. I’m trying to figure out what would be a more easy-to-understand class and see if I could incorporate existing technology.

---

**(Page 38) One Thousand and One Nights of  
Origami  
By Jun Maekawa  
Story 6 - Papyrus Is Not Paper?**

The Japanese Industrial Standards definition of paper is as follows: “Manufactured by gluing plant fibers and other fibers together. In a broad sense, it includes synthetic paper manufactured using synthetic polymeric materials as a material, as well as paper blended with fibrous inorganic materials.” In other words, paper is made of fibers that are glued together rather than woven together. What is interesting about this definition is that it does not mention that there are some other types of paper, such as sheet-like forms and certainly packing materials.

Based on the definition of fiber adhesion, it can be said that “Nonwoven fabric” used in masks is closer to paper than cloth. However, in the Japanese Industrial Standards, nonwoven fabrics are defined separately, and after the general definition there is a line that says “excluding paper, woven fabrics, knitted fabrics, etc.” It’s not as clear-cut as a mathematical definition, and even if you use this as a clue to think about what paper is and what non-woven fabric is, you’ll only get confused. An example is the ancient Egyptian papyrus, which is the origin of the word paper. Although it is not generally considered paper, I thought it could be considered a type of nonwoven fabric, but it is not according to Japanese Industrial Standards. The idea of applying the Japanese Industrial Standards to papyrus is a joke, but the definition includes the phrase “fibers are oriented in one direction or randomly,” and papyrus deviates from this definition. Papyrus is made by arranging papyrus fibers in two layers, both vertically and horizontally, and then pounding and compressing them. The definition of nonwoven fabric includes the phrase “fibers are unidirectional or random” to distinguish it from “cloth,” which has fibers arranged vertically and horizontally, but this excludes papyrus from the definition of nonwoven fabric.

For those who make origami, the most important characteristic of paper is that it is sheet-like, and if it can be creased without cracking, well, it’s all paper. I’ve never folded it, but papyrus is stored rolled up, so if you try to fold it, it will probably break. From the point of view of folding, it is like the “Kyogi” [ paper-thin sheet of wood] used in Kiyoken’s Shumai bento boxes, and which was once used to write sutras.

---

**(Page 39) Paper Folders on File  
File #102 – Tetsuya Gotani  
Report by Editorial team**



○ Tetsuya Gotani = Born in 1974, Oita Prefecture [Japan], currently living in France. He disseminates origami locally through origami classes, exhibitions, and lectures. For the past few years, he has been concentrating on his own creative activities, but recently he has become interested in reading and learning from other artists' models. His masterpiece is the book "Origamix."

■ **What made you start origami and what are your memories?**

I don't remember, but my kindergarten was Froebel Academy, so it's possible that I started folding at that point. However, when I was in elementary school, my parents told me that I should stop making origami and start painting or sculpting instead. The reason was that origami lacks creativity and was merely imitation. It seems like I was so into origami that people around me wanted to nag. However, like the children around me, I naturally stopped doing origami in the upper grades of elementary school.

■ **How did you restart origami?**

More than 20 years have passed since I stopped folding, and while working as an accordion player in France, I also worked as an elementary school student looking after children. So, one day, I gathered the children together and held an impromptu origami class, which was a great success. This is how I started holding origami classes at elementary schools, which I continue to do to this day. When teaching traditional models, Yamaguchi's book "Japanese Origami Encyclopedia" was very helpful.

■ **What inspired you to create?**

One day, in an origami class at an elementary school, there were no more pieces to teach, so I had no choice but to create my own. It happened to be Christmas season at the time, so I made a simple Santa, which was my first creation.

■ **What is your process behind creating complex models?**

I first learned about realistic and complex origami from one of the origami books sent to me from Japan, "Dinosaur Origami" by Fumiaki Kawahata. As I was absorbed in folding all the works and analyzing them in my own way, I realized that I wanted to create myself something like that. Many of my early models were arrangements of the works in "Dinosaur Origami."

■ **What other books or authors who have influenced you?**

I also learned a lot from Kawahata's "Fantasy

Origami", Jun Maekawa's "Genuine Origami", and Toshiyuki Meguro's website. In terms of influences, I am influenced in some way by all the models I have folded and seen. However, the skills and taste of today's creators are so amazing that it's very difficult to analyze and borrow from their techniques.

■ **What is your relationship with JOAS?**

I can think of Kawahata, Maekawa, and in that order with relationship with JOAS. I immediately became a member and always looked forward to receiving magazines from Japan. I also learned that a convention was being held, a book of diagrams was going to be published, and diagrams were being solicited. From then on, it became my dream to have my model featured in a convention origami book. I was overwhelmed with emotion when I saw my first elephant featured after several years of trying.

■ **What is important to you in your creative work?**

The only way to acquire techniques is through research and experimentation, but my attitude toward creation is influenced by Japanese artists. I especially keep in mind the conversations I had with Noboru Miyajima, Gen Hagiwara, and Kyohei Katsuta who I met in France, as well as the encouragement I received from Tomoko Fuse regarding my book.

■ **Please tell us about your activities in France.**

Compared to Japan, where there is a strong stereotype that origami is something familiar and a child's play, in France, especially complex models, are sometimes seen as art. However, when it comes to simply comparing origami works with other works of art, it can be quite difficult (just ask, how much does this origami cost?). I'm fighting so that we make full use of all the power of origami, including the finish and texture of the completed work, as well as the geometric interest of crease patterns and shapes that are being folded into bases, and the fun of folding that we convey in origami classes.

■ **What are your future prospects?**

We will continue our activities to convey the joy of origami to French people and introduce complex origami. In addition to that, I would like to increase the number of creative friends I have, and I think it is important to spread the word about JOAS's activities.

I feel very honored to be invited as the special guest artist to the Origami Tanteidan convention. It's my first time back in over ten years, and I'm looking forward to meeting everyone in the place I've always dreamed of.



## ◆ Symposium - Origami connects art, science, and industry

Following the convention, an academic symposium led by Professor Tomohiro Tachi of the University of Tokyo will be held at the same venue on August 12th. Enjoy the three-day origami festival.

Location (Ichijo Hall, Yayoi Auditorium, University of Tokyo) Open to the public, free to attend (advance registration required: approximately 300 people)

Sponsored by: Academic Transformation B "Origami Connects" (launched in 2024)

Lectures by special guests Ekaterina Lukasheva, Jun Maekawa, Shigeru Kondo, Yoshiyuki Miyamae, etc.

Sponsored by: Japan Origami Academic Society

Person in charge: Tomohiro Tachi (Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo)

\*Please register separately from the website page (will be linked from the convention special page).

## ◆ Notice of the 29th Origami Detectives Convention

It has been decided that the convention will be held at the Yayoi Auditorium of the Faculty of Agriculture, University of Tokyo. Like last year, it will be a hybrid event with a face-to-face event and online streaming in one room on site. Additionally, it has been decided that an academic symposium by Professor Tomohiro Tachi of the University of Tokyo, who is also a JOAS board member, will be held at the same venue this year, and a three-day collaboration project is also being considered.

### ● Event overview

Date: August 10th (Sat) - 11th (Sun), 12th (Monday, substitute holiday), 2024 Collaboration project

Number of participants: 300 people (planned)

Participation requirements: Origami enthusiasts of elementary school age and older (elementary school students must be accompanied by a guardian)

Entry fee:

Local adult = 7,000 yen

Local student = 5,000 yen

Online = 3,000 yen

\*Online passports and member/subscriber discounts are not available.

\*Due to operational reasons, online broadcasting will be limited to classes held in one designated room, and you may not be able to participate in all events or classes.

### ● Application for participation: Starts on Tuesday, June 25th

How to apply: Tickets will be sold both on-site and online. Please apply and pay on the special page set up on the Japan Origami Academic Society's website. Registrations will be accepted from 7pm on June 25th and will be on a first-come, first-served basis. The deadline for on-site registration will be Sunday, July 14th, but registration will end as soon as capacity is reached. \*The deadline for online registration will be Friday, August 2nd.

\*Last year, due to the large number of applications, we reached capacity in 3 days. Please apply as early as possible.

After the registration is closed: Those who have accepted the registration will receive a confirmation email. After that, we will send an email to both on-site and online participants with a summary of their participation. Please read carefully and participate.

Classroom ticketing number: Those attending on-site will be given a classroom ticketing number as usual.

### ● Main contents (planned)

○ Special Guests: Two individuals have been invited: Tetsuya Gotani from France and Jin-woo Kim from South Korea.

○ Special lecture: The special guests will give lectures on the morning of the 10th. Online transmission is also planned.

Special guest from South Korea Kim Jin-woo was born in 1979. He started origami when he was 6 years old. He currently works for a semiconductor manufacturing company. He is active as a creative committee member of the Korean Origami Association and is also the leader of the Origami Pro team. He likes folding diagrams, and creates models based on the themes of animals and objects.

Tetsuya Gotani is presented in the profile of a Paper Folder section on page 39.

○ Origami classes: 70 to 80 classes of one 50-minute or two period classes (change may happen). The main program will be released on the day registration.

○ Sales: We plan to sell the 29th Origami Tanteidan Convention origami book.

○ Work exhibition: models by special guests and local participants will be exhibited. Only local participants can view the exhibition. Some exhibits will also be displayed at the academic symposium on

the 12th. Those who have registered to participate in the academic symposium will be able to view it on the 12th.

\*If you would like to exhibit your work, please be sure to apply using the application form on the website (one space per person will be 24cm x 24cm x 24cm).

○ Origami popularity contest: Theme Chinese zodiac "Snake"

○ Origami ATC exchange meeting: Exhibition and exchange meeting are planned.

○ Dinner banquet/social gathering: 18:00 to 20:00, Participation fee = 5,000 yen Advance registration required (capacity: 100 people). Cancellations after the deadline (July 14th) are not possible.

### ● Contact information

Email: [convention@origami.jp](mailto:convention@origami.jp)

\*Please contact us separately regarding the origami instructor exam.

\*The contents of the convention are subject to change due to unavoidable circumstances.

For various applications and details, please check the convention page:

<https://origami.jp/convention/29th/>

### ◆ General meeting information

The general meeting will be held online from 14:00 on Friday, August 9, 2024 as follows.

Name: 25th Japan Origami Academic Society General Meeting

Date and time: August 9, 2024 (Friday) 14:00~

Holding method: Online via Zoom

Participation eligibility: Japan as of June 30, 2024

Origami Society member (resident in Japan) (\*)

(\*) Please note that magazine subscribers are not eligible.

How to participate: Information will be mailed to members in mid-July 2024.

### ◆ Recruiting origami instructors

We are looking for those seeking to be an origami instructor at a convention.

○ Registration conditions: Age and qualifications are not required, but only those who will participate locally.

○ Registration period: May 25th (Sat) - June 8th (Sat)

○ How to apply: Please register using the form on the convention special page.

○ Class model: It does not have to be your own creation, as long as you have permission from the creator.

○ Regarding selection: If there are more applications than there are instructor slots, the executive committee may be forced to decline the application after considering the balance of genre and level of difficulty. Please note. The selection results will be notified by email by June 22nd. Please see the special page for details.

### ◆ OrigamiATC exchange meeting

○ How to participate in the on-site exchange event: Make origami cards for size 64 x 89 mm (be sure to follow the rules) and exchange them with each other at the venue. There is no theme. Once you submit one piece to the OrigamiATC representative, it will be displayed at the exhibition hall.

Those who cannot participate in person can participate by mail. For details, please contact [info@origami-atc.jp](mailto:info@origami-atc.jp).

### ◆ Creative origami popularity contest

Theme Zodiac: "Snake"

○ Entries: Limited to unpublished creative models

• Entries are limited to one model per person.

- Composite is possible, cuts are not allowed.

• Both 2D and 3D models will be accepted.

• Size within 24 x 24 x 24 cm space.

• Models that directly imitate anime characters, etc. will not be eligible for voting.

○ Registration period: Advance registration is required. Please complete the registration procedure between June 25th and July 31st using the form provided on the special page. You will not be able to participate even if you bring your work directly to the venue without prior registration.

○ Registration qualification: Limited to convention participants only. Models must be brought in and out by local participants.

○ Exhibition method: An exhibition space will be prepared based on the information registered in advance. Please display it in the designated area at the venue by 13:00 on the 10th.

○ Judging method: By 3:00 pm on the 11th, local participants and local participating board members will vote online using their smartphones, etc., and the popularity vote results will be announced on the same day. The results will also be published in this magazine and on the JOAS website.

○ About awards: Awarding certificates (\*no trophies) For details, please see the website page.

### ◆ Currently recruiting folding diagram submissions

Call for manuscripts for "29th Origami Tanteidan Convention Origami Collection"

In response to the decision to hold the convention, we have begun accepting submissions for folding diagrams.

○ Entries: Must be original or arranged models, and must be unpublished origami diagram created by the individual. (In case of arrangement, please clearly state the name of the original model and author, and obtain permission from the original creator)

○ Submission deadline: June 15th

○ Submission qualifications: We will consider submissions not limited to magazine subscribers and



members of the Japan Origami Academic Society.

○ Diagram specifications: Diagrams must be in monochrome. If possible, use Adobe Illustrator format (also increases chances of acceptance). Please note that the layout of the illustrations will be done by Origami House. Please send both the original data and PDF of the folding diagram.

○ Publication announcement: The announcement will be done together with the publication of the book.

○ Regardless of the number of diagrams created by the published person, only one PDF version of the book will be presented.

Posting page: <https://origami.jp/convention/29th/#diagram-book>

---

## ◆ Echigo-Tsumari Art Festival - Art Triennale 2024

Tomoko Fuse will exhibit at "Echigo-Tsumari Art Triennale 2024"

An art festival that has been held for a quarter of a century in the vast countryside of the Echigo-Tsumari region of Niigata Prefecture (Tokamachi City and Tsunan Town). This year, it will be the 9th edition. Tomoko Fuse's model "Origami: Tsunan Forest Created by Everyone" will be exhibited. Please enjoy the "Big Forest" created with about 270 local children.

[Event period] July 13th (Sat) - November 10th (Sun), 2024 Closed on Tuesdays and Wednesdays

[Opening hours] 10:00-17:00 (July-September), 10:00-16:00 (October-November)

\*The above are the dates and times when you can view Fuse's works. Release dates and times vary depending on some works.

[Venue of Fuse's works] Former Oguchi Department Store (569 Shimofunatocho, Tsunan-machi, Nakauonuma-gun, Niigata Prefecture)

[Admission fee] 400 yen or present a "Work Appreciation Passport" which allows you to view most of the art festival works.

[Parking] Available (about 2 minutes walk to the venue)

---

## ◆ SwitchPen Gift to 5 people

We will give away the "SwitchPen" made by CRUSHMETRIC, which was presented in this issue of "(Page 16) Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN", to 5 people by lottery. Please access the application form page using the URL below or the QR code listed here. Enter your name and email address and press the "Send" button to enter the lottery. Entries are limited to one entry per magazine subscriber, and the deadline for entries is June 30th.

Winners will be notified by email from the editorial department later.

Please also answer the questionnaire on the application form.

Application form <https://forms.gle/SGLW4yN5PkQV98X19>



## おりづる Utagawa Kuniyoshi



商品内容プリントおりがみ 15.0cm×15.0cm 48枚入 (24柄×2枚)

奇想の浮世絵師・歌川国芳の代表作から厳選した魅力的な浮世絵を折鶴の羽に描きました。国芳は江戸時代末期から幕末にかけて活躍した浮世絵師です。武者絵で人気となったが、諷刺画や美人画、風景画や戯画など様々な分野で活躍しました。また、懐に猫を抱きながら描いたというほどの猫好きで様々な姿の猫が描かれたユーモラスな作品も多数存在します。折鶴を通して歌川国芳の作品をお楽しみ下さい。

一勇斎国芳「滝夜叉姫と骸骨の図」  
国立国会図書館デジタルコレクション（編集して作成）

¥600（税抜き）

おりづる 歌川国芳

ユニバーサルデザイン折鶴入

●写真は印刷ですので実際の商品と色などが多少異なる場合があります。  
※表示価格には消費税は含まれておりません。  
※内容・デザインは一部変更になる事があります。

本社 〒120-0044 東京都足立区千住緑町2-12-12  
TEL.03-3882-8161（代）

大阪支店・名古屋営業所・福岡出張所

 株式会社トヨー  
http://www.kidstoyo.co.jp

